

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	一年前期開講、必修、演習科目であるため、 ①授業計画、達成すべき目標を分かりやすく伝えるよう努めた。 ②授業の終わりには毎回、各授業の目的を記した用紙にて小レポートを提出させ、学生の意欲、態度、理解度の把握に努めた。 ③②を踏まえて次の授業での演習方法や目的説明のあり方を調整するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は8.6点であり、単位未修得者は0名であった。殆どの者が標準レベルに達した。 学生による授業評価においては、全員が「自分なりの目標を達成した」と答えており、1年前期の時点でこのような自己評価ができたことは評価できるものと考えられる。細部については、知識獲得、視点獲得ができたと答える者が大半であり、専門分野との結びつきを意識しながら取り組むことができたようである。また、意欲のみならずスキルを獲得したと思える学生が多くみられたことは、目標達成に繋がったことだと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①本科目は、一年前期開講の卒業必修科目である。大学の教育方針、授業形式、人間関係に慣れ、一年後期からの「専門科目」の演習群に導入していくための重要な位置付があると考えられる。 ②成績評価からは、目標は概ね達成されており、学生の自己評価では達成できたと評価する学生が多くみられたことから、今後の学生生活、専門科目における講義、演習の履修に大いに役立つ体験が得られたと考えられる。 ③以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価において、学生が参加する機会が作られていた、の平均が4.8、質問を受け付けそれに答える機会が作られていた、の平均が4.7と高得点であった。引き続きこのような評価が得られるように工夫していく。 学生からの意見に、授業の課題以外に取り組むことがなかった、感想を書くことで精一杯との意見が見られたが、演習であるため、出席して活動すること自体が重要であると伝えており、「授業内で体験したことを内省し、自己理解を深めていくこと」を目的にした課題提出を求めたためと考えられる。今後も、授業について振り返る時間とることができるよう課題内容を吟味していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね達成できたと考えられる。 来年度も引き続き、新入学の学生の状況を個人、集団での理解の様子をみながら、より良い授業展開を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 入学したばかりなので、大学生生活に慣れること、友達作りを促進することを目的とした授業を行った。バーバルコミュニケーションやノンバーバルコミュニケーションについて、グループで実際に体験しながら楽しく学べるように指導した。 2. 受講動機を見ると、「必修科目である」100%、「資格取得に必要なものである」25%と二つの数値に差があること、「関心のある内容である」83%と関心が低いことがわかる。 3. 本科目は、対人サービスがどのようなものであるのかを体験を通して実感できるよう指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1 レポートでの評価は、全員が標準レベルに達していたが、問題を掘り下げて考える力がやや不足していた。 2 演習なので、何をどのように予習したらよいかわからないとのことであった。 3 次年度に向けて、次回の課題を提示することにより、コミュニケーションの大切さが理解できるように支援したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP 本科目は、必修科目であるので、学生は初めは義務的に受講していたが、少人数の演習なので次第に関心を示し真面目に受講していた。成績も標準レベルに、全員が到達した。内容的には妥当であると考え。 2. DP 成績評価では、コミュニケーションや信頼関係の形成についての理解や知識は修得したようである。課題の掘り下げに物足りなさを感じたが、社会福祉士として備えていなければならない知識を学ぶことができたと考え。内容的には妥当であった。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

大学に入学したばかりで、緊張していたが、少人数でグループ分けをし、体を使ったり、推理力を働かせるなどチームワークや人間関係作りを行った。
学生は、初めて経験することが多く、楽しく熱心に事業に参加していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

知識・理解においては、一定のレベルに達することができた。今後は、専門職としての自覚が形成できるよう指導していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルについて、1年生が教員別グループに分かれ、参加型、体験型の演習プログラムを中心として行う講義である。テーマを4領域に分け、演習を通じて学ばせる。1年生の対人接触サービス業を目指すものとしての、必要なものを習得できるよう工夫した。特に自分を表現し、人との関係性を作ることを目的として、とりわけゲームの要素を導入して、個人や集団になってかかわりを持たせるように工夫した。初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた、
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	第一に考えられることは、欠席がほとんどなかったということで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、大学に入って一番楽しい授業という記載内容のものが多かった。当然それだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、この演習の必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学んだことをまとめることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。昨年度は講義時間内だけのものになった感じが見受けられるので、今年度は更なる工夫として、現実社会の中でのリアルな状況設定を取り入れることを意識して、障害者や高齢者、児童等が関係している社会的ニュースの情報提供を行い、考えさせて興味を持たせた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、専門基礎科目でもあり、1年生の福祉、とりわけ対人接触サービスを行う専門職としてのスキルを身につける講義として、関係性の重要性を理解すること、そのことを体験として学習していくことを考えていけば、学生からの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても、コミュニケーションスキルの重要性、協力するためのスキルの獲得もできていると考えられることから、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けをしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	大学に入り、1年生で最初にグループ化して「責任ある行動、協力、課題を自覚、自己研鑽、コミュニケーションスキル」の理解と能力を高めるための、非常に重要な演習だと思う。本演習においては、学生からの自己評価やアクションペーパーや、最終講義の時の個別報告によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。講義内容もシラバス通りに進出した。次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代と共に求められるコミュニケーション能力も変遷をしていくと考えられるので、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	対人援助の専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係を作る力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例:「他者の意見を批判・批評しない事」を約束とするなど)に努めた。また各自の内省力を高めるために、グループ討議だけでなく、毎回振り返りシートを作成し、記入させた。1年前期の必修科目であり、コミュニケーションや自己表現の力が求められる授業であるため、学生の学習準備性にはばらつきがあると想定されたが、学生にとってなじみのあるゲームやエクササイズを準備したり、「自分なりの変化」に目を向けるような介入を行うことで、これに対応した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は84.38(±6.09)であり、全ての学生が標準もしくは理想的レベルに達していた。また学生の自己評価についても全ての項目においてその平均値が3.8-4.5と高く、特に本科目の目的である「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目の平均値は4.5と高く評価していたことから、本科目の教育目標は達成できたものと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生は「必修科目である」ことを受講動機にしている者が100%であり、他の項目を選択した者も「資格取得に必要である」が23.1%、「単位数を確保する」が23.1%と、受講時点においては科目そのものに対する興味関心は比較的低いものと考えられた。しかし学習到達度の自己評価の平均値がいずれの項目においても高いため、自分の能力やスキルの向上を実感できたものと考えられ、内容的妥当性はあるものと評価している。一方DP及び行動目標という視点から検討した場合、DP4、5ともに十分に達成されていると評価できるため、方法的妥当性も有しているものとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価については、全ての項目の平均値が4.2-4.4と高く、演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績及び学生の到達度評価、授業の質評価のすべてにおいて高い数値を示しているため、本科目の教育目標は達成できたものと評価している。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ヒューマンサービス基礎演習	1	前期	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」18.2%、「単位数を確保する」18.2%、「関心のある内容である」9.1%、「教員に勧められた」9.1%であった。本科目では、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキルについて学ぶ。しかしながら、大学入学時の段階では、学ぶ内容について理解できていない学生が少なくない。初回の講義の際には、文書と口頭で本科目の概要・行動目標について説明するようにした。また、毎回の講義の最初には、各講義の目標について示し、また、講義の最後には、各講義での学びについて振り返りを行うようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再履修対象者は0名であった。学生の到達度自己評価では、全ての項目の平均点が4点以上であった。特に、本講義の目標と関連する「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」に関しては、平均点が4.8点であった。到達度自己評価の結果から、教育目標は達されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、ヒューマンサービスの専門家として必要とされるスキルについて、参加型・体験型の演習プログラムを用いて学ぶ内容となっている。到達度自己評価の全項目の平均点が4点以上であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」に関しては平均点が4.8点であったことから、内容は妥当であると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の平均点は、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」4.6点、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け、それに答える機会が作られていた」4.6点、「説明は理解しやすいものであった」4.5点、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.3点、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」4.3点であった。全ての項目の平均点が4.3点以上であった。前年度は、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」が3.9点であった。改善策としてオリエンテーション時に評価基準を示すことを掲げ、それを実施したことにより、若干の改善がみられたと考えられる。次年度においても、オリエンテーション時の説明を重視したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ヒューマンサービスの専門家として必要なスキルについて学ぶことが出来ていた。しかしながら、約7割の学生が予習・復習を行っていなかった。一方で、約2割の学生は予習・復習を行っていた。前年度は、予習・復習の改善策として、学生が興味をもてる情報や課題を提供することを掲げていたが、十分な効果が見られなかった。次年度は、学生が予習・復習に取り組みやすいように具体的な課題を提示し、学生の主体的な学びが促進されるよう努める。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会調査の基礎	3	前期	選択	いいえ	87

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士国家試験の受験科目であるため多くの学生が参加していた。ただし意欲の点からすると苦手な数学のイメージから、及び腰の学生も多く見られた。統計的技法の習得に十分な数学的技能を備えていない者も多く、「統計の意味を理解する」ことに重点を置いた。授業のオリエンテーションにおいても、計算が苦手でも必ず社会調査を理解することができるという授業のコンセプトを説明し、学生の動機付けに配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成されなかった			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は71.3点、合格率は90.6%であった。平均点を70点程度と予想しており、おおよそその通りの結果であった。秀は8名、優は15名であり、上位層も一定数存在する。知識理解に関する項目はある程度定着しているが、文章を元に考えさせる思考判断はまだ不十分であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	資格試験に対応した科目であり、一定の基礎的な学習の上に展開する3年次科目として、内容的に妥当性があると思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業方法としては(1)社会調査のイメージ作り(2)意義の理解(3)統計的手法の理解と活用といった順番で進めた。 (1)(2)については国家試験の過去問と照らしても学生も理解しやすいが、(3)から突然難易度が上がると感じる者も多かったようだ。テキストだけでなく、レジュメやスライド資料を活用しながら、できるだけ「なぜその統計手法が必要なのか」が理解しやすい授業を心がけた。授業中にはある程度理解できても、その定着が困難な場合もあり、繰り返し学習もこれまで以上に取り入れる必要があると感じている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学習集団全体としては一定の目標が達成できたと考える。ただし、下位層に関しては授業内容についてこられない者が一定数存在する。これに対しては補習的教材の準備などで対応してはいるが、まだ十分な効果を上げていない。より積極的にどうわからないのかに踏み込んだ授業改善が必要だと考える。 上位層については、現状絞り込んだ範囲をきちんと理解させるという方法が効果を上げている。今後は余裕のある学生はより広い範囲の学習を進める方法を検討したい。学習集団にはばらつきがあるため、自己学習の形で対応するのか、その場合試験範囲をどのように取り扱うのかを含め検討したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉行財政と福祉計画	3	前期	必修	はい	104

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1 3年生になって、全員が社会福祉司を目指すわけではなくなっていることに加え日常生活においてなじみが少ない内容のため、何を学ぶかをイメージしにくいことが課題である。受講動機を見ると、「必修科目である」90.7%、「資格取得に必要である」38.4%と二つの数値に差があること、「関心のある内容である」4.7%とかなり関心が低いことがわかる。 2 日本の財政状況や北九州市の財政について具体的に解説を行うように努めた。また、福岡県や北九州市の福祉計画の実物を入手し、学生に提示し、計画の策定過程や実施状況について講義を行うようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1 レポートでの評価は、全員が標準レベルに達していたが、問題を掘り下げて考える力が不足していた。 2 学生は、教科書や図書館で資料を集め調べていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1 CP 本科目は、「専門科目」であり、必修である。国家試験の科目であり、学生も必要に迫られ真面目に受講していた。成績は、全員が標準レベルに到達していた。内容的には妥当であると考え。 2 DP 成績評価では、問題の掘り下げに物足りなさを感じたが、社会福祉士として備えていなければならない知識を学ぶことができたと考え。内容的には妥当であった。 3 まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	1 国家試験の対象科目であるため、教科書に沿って授業を進めた。日頃耳慣れない専門用語が多く出てくるので、できるだけわかりやすく講義を行 う必要がある。具体的事例を多く集め、事実に基づいた解説を行う。 2 専門用語に日頃から慣れていくよう支援を行う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	知識・理解においては、一定のレベルに達することができた。今後は、学生の苦手意識を減少させ、少しでも行政や福祉計画について身近なもの として考えていけるよう支援していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉経営論	4	前期	選択	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1 4年生になって、社会福祉士を目指す学生が受講する科目である。受講動機を見ると「必修科目である」37.3%、「資格取得に必要である」78.0%と二つの数値に差があること、「関心のある内容である」6.8%とかなり低いことがわかる。 2 本科目は、卒業してすぐに役に立つというものではなく、卒業後10年～20年たって管理職になった時に役立つ科目である。従って将来管理職を目指す学生にとっては、大事な科目である。 3 本大学が設立した、高齢者複合施設「とばた」の実例を用いて、学生に身近な問題として学んでもらえるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1 レポートでの評価は、全員が標準レベルに達していたが、問題を掘り下げて考える力が不足していた。 2 学生は、教科書や図書館で資料を集め調べていた。 3 次年度に向けて、より様々な資料を収集、提示し、学生がさらに理解が深められるよう支援したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1 CP 本科目は「専門科目」である。国家試験の科目でもあり、学生も必要に迫られ受講していた。成績も、標準レベルには全員が到達していた。内容的には妥当であると考え。 2 DP 成績評価では、課題の掘り下げには物足りなさを感じたが、社会福祉士として備えていなければならない知識を学ぶことができたと考え。内容的には妥当であった。将来、管理職に就く社会福祉士にとっては、しっかり学ぶべき科目と考える。 3 まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
 単にお示ください。
 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
 ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン
 ターネット利用」学生の意見など

- 1 国家試験の対象科目であるため、教科書に沿って授業を進めた。日頃、なじみのない専門用語が多く出てくるので、できるだけわかりやすく講義を行う必要がある。
- 2 専門用語に日頃から慣れていくよう支援を行う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

知識・理解においては、一定のレベルに達することができた。今後は、学生の苦手意識を減少させ、将来管理職に就いた時のイメージ作りができるように支援していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子ども家庭福祉論	2	前期	必修	はい	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の課題ごとに、パワーポイントを基に説明したが、必ずしも教科書の章立てに基づく進行どおりではないため、テキスト該当箇所を、復習の参考として示した。また、参考文献や資料等についても案内したが、概ね大半の学生は復習等に利用していないようであった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して大半の学生は、定期試験の結果からは最低限の目標は達成されているが、意欲関心の一つの指標である授業中の参加度はあまり高いとは言えない。僅かの学生であるが、指定図書やネットで検索するなど関心・意欲のある学生がいたことは、教員として大変勇気づけられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現代の子ども家庭の福祉課題についての導入・概論的な内容であり、様々な問題についての知識・理解が求められる。法制度のみならず、机上の知識とリアルな現実とを統合させ思考できるように授業を展開したが、その内容の学習については、3年時以降の演習等で成果を見直す必要がある。また、子ども家庭福祉の側面だけ切り出しても、今日の我が国の福祉課題の理解には繋がりにくいため、最終学年で他の教科の学習成果とあわせて子ども家庭福祉の全体像を理解できることが求められる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の課題 ごとにレジメを配布した。みにくい、重要点が分からないという学生からのコメントがあったが、何が大切かについて、教員が強調する内容やここは理解を深めておくように等促した点について、授業の中で認知していくことも、学習全般の重要なポイントであるため、この点について授業中に説明した。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね大半の学生は、全体を通して、定期試験の結果からは最低限の目標は達成されたが、どの程度定着しているかは測定不能である。最終的な確認の産物としては国家試験での本科目の得点であろうが、各教科目の総合的理解が本科目の理解にもつながるため、今後の学生の学習に期待したい。講義中心のため授業中の参加度はあまり高いとは言えない。視覚教材なども用いたい、教授内容が多岐にわたり最低限の内容説明の時間しか取れないが、できる限り次年度以降学生の本科目への興味関心を高めるためよう授業を展開し、多くの目標達成に寄与したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公的扶助論	3	前期	選択	いいえ	85

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」58.7%、「必修科目である」50.8%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置くとともに、生活保護の被保護者に対して、ネットではびこっている偏見を決して鵜呑みにすることのないよう、生活保護制度の理念・原理・原則や制度の正確な内容、および被保護世帯の実態を正確に伝えることに重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は71.37点(福祉心理養護教諭コース73.41点、子ども家庭福祉コース66.42点)、再試対象者は15名であった。子ども家庭福祉コースの学生の平均点が福祉心理養護教諭コースの学生と比べてやや低かったのは残念であった。また、理想的レベル(80点以上)に達した者は25名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均は3.6、「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均は3.5だったが、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均は3.3であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは比較的高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均は3.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」、の平均はともに3.4であった。また、授業の課題以外に学習していない理由として「時間がなかった」、「他の課題でいっぱいだった」という意見が見られた。他方、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均が3.1とやや低い。かつて質問を受け付けていたら、質問が殺到し、担当教員の体調や他の業務に支障が出たことがあったので、教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方を考えたい。学生の意見について、「オープンキャンパスでもらうパンフレットに良い講義だと先輩がコメントしていた」「とても説明が分かりやすかったです」「早口で聞こえづらい時があった」という意見があった。話すスピードについては改善の余地があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。話すスピードと質問を促す方策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特になくと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
司法福祉論	4	前期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」86.0%であった。4年生対象の科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験を受験する予定の学生が多いことから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、主な支援の対象者である保護観察対象者も社会の一員であり、先入観や偏見を抱かせないことに重点を置いた。また、更生保護の現場に携わる職員を外部講師として招き、援助のイメージの具体化に努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は77.80点、再試対象者は5名であった。また、理想的レベル(80点以上)に達した者は25名であった。到達度自己評価について、知識理解、思考判断、意欲関心の平均がいずれも3.3-3.5であり、突出した特徴は特に見られない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生がほとんどであり、学生の講義に対する動機付けは非常に高い。履修者の過半数が理想的レベルであることから、内容的には妥当であると考えます。 ②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考えます。よって、内容的妥当性には問題ないと考えます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均は3.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均は3.4であった。授業の課題以外に具体的に組み込んだ学習に「精神の教科書を読む」が見られる一方で、授業の課題以外に学習していない理由として「他の課題が忙しいため」「他の教科があったため」という意見が見られた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれも達成できたと考えている。質問を促す方策については、検討する余地があるが、それを除けば、改善すべき点は特にないと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
家庭支援論	4	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については「必修科目である」59.3%、「資格取得に必要である」29.6%、「関心のある内容である」18.5%、「単位数を確保する」11.1%と、授業への関心にはばらつきが見られた。また、家族を主題として取り扱う科目は3年次までにないため、学習準備性においても個人差があると考えられる。学生の学習意欲を維持・向上させながら、新たな知識や事象を理解する視点を得ることができるよう、多くの具体的事例や視聴覚教材を用いるなどの工夫を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートおよび到達度自己評価から、概ね一定程度の知識理解が得られたと考える。一方で、思考を深め的確に判断できるようになるまではやや達成されなかった。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は3.4と比較的高い値であったが、学習量の評価、情報利用において具体的な成果があまり見られず、達成度についてはどちらともいえない状況である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士資格取得に必要な科目であると同時に、福祉心理養護教諭コースの学生も履修できる科目として位置づけられており、知識習得と同時に、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲をもつことにつながるということが求められる科目であると考えられる。このような点において一定程度の成果が得られたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の意見として、視聴覚教材が理解を深めるのに役立ったとの記述がみられた。学生の知識理解、意欲関心につながる適切な教材についてさらに検討を加え、次年度の授業計画に取り入れていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成度自己評価の結果とレポートから、「基本的な知識理解」と「知識に基づく思考判断」においてはある程度達成できたが、多角的応用的なものごとを捉える視点において、思考判断の面では課題が残っていると考え。さらに学生自身が学びと思考を深めることに到達できるよう工夫していくことを来年度の課題としたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」66.7%、「関心のある内容である」13.3%、「単位数を確保する」13.3%であった。 本科目は、相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについてロールプレイや事例を用いて学ぶ内容である。前年度の課題として、「オリエンテーション時には、本演習により得られた学びが将来の仕事にどのように活かせるのかについてイメージできるような説明を行うこと」を示した。本年度は、オリエンテーションだけでなく、演習内においても、演習での学びと社会福祉士などの相談援助専門職との関連性について随時伝えるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価では、9項目において平均点が4点以上であった。特に、本科目における学生が到達すべき行動目標と関連する「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は、それぞれの平均点が4.3点であった。また、自由記述では「知らない技法や支援方法を知れた。実習の時に活かしていきたい」というコメントもあった。これらのことから、教育目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、必須科目であるとともに、社会福祉士の資格取得を目指す学生に必須科目である「相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」につながる重要な科目である。自由記述では「分かりやすく、身に付く演習だった」「技法などを実習の時に活かしていきたい」などの記述もあった。学習到達度自己評価および自由記述の内容から、内容的妥当性に問題はないと考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、全ての項目の平均点が4.1点以上であった。特に、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は、平均点が4.5点であった。今後も、学生が主体的に参加することができる授業を実施していく。また、前年度は、「講義外の時間に学ぶことができる課題を提示していく」ことを改善策として掲げた。本年度の授業評価アンケートの結果、本科目のために、インターネットを利用した学生は6割であったが、図書館の図書や雑誌を利用した学生は1割以下であった。次年度は、インターネットからの情報だけでなく、図書や雑誌などを学生が活用できるような課題を提供するように努める。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価アンケートの結果から、教育目標を達成することができたと考えられた。相談援助専門職に必要な知識・技術・価値・実践の原則・視点と支援方法などについて学ぶ科目であるが、到達度自己評価の「職業選択の参考になった」の平均点が3.9点であり、他の項目に比べ評価が低かった。今後は、相談援助専門職の業務内容や活躍の場などについても理解が出来るような事例等を活用するよう努める。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目及び必修科目となっている。授業評価アンケートにおける学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」（85.7%）、「資格取得に必要である」（50.0%）、「関心のある内容である」（14.3%）の順になっており、授業への関心・動機にばらつきがあることが伺える。 本科目は対人援助職に不可欠な基礎的コミュニケーション能力や面接技法を主な内容としている。したがって、学生の学習への関心・意欲を高められるよう授業展開を工夫した。具体的には、支援事例の検討、ロールプレイ等を活用しながら参加型の授業となるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う64.3%、わりにそうだと思う35.7%）とであり、目標を達成したと言える。「思考判断」（DP2）は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う21.4%、わりにそうだと思う64.3%）であり、目標を達成したと考える。「技能表現」（DP5）は「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う28.6%、わりにそうだと思う57.1%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う28.6%、わりにそうだと思う57.1%）となっており、これも目標を達成したと言える。 一方で、学習量の評価（予習・復習の時間、自発的学習）や図書館の利用状況においては、学習時間の確保や学習意欲の向上の面で不十分な状況にある。全体として十分に教育目標が達成したとは言い難いと考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 学生の学習意欲向上への課題は見られるものの、授業評価アンケートにおける学生の到達度評価からもDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は対人援助の基礎的技術（特にコミュニケーション技術、面接技術）を修得する科目である。これらは3年次開講の相談援助実習において不可欠な技術であり、CPおよびカリキュラムマップ上に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

上記したように学生の受講動機の面からは課題があると言える。また、図書館の利用状況や予習・復習時間から学習量の確保といった課題も推察される。今後は学生の動機づけや自発的学習態度を促す授業内容・展開を検討する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目における教育目標はある程度達成されたと言える。しかし、学習への動機づけや学習量の確保と言った課題も明らかとなった。来年度の課題としたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉原 好則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1 2年生の必修科目である。樹高動機を見ると「必修科目である」92.3%、「資格取得に必要である」30.8%と二つの数値に差があること、「関心のあ 内容である」0%と関心が低いことがわかる。 2 本科目は、面接技術や児童虐待のケースの進行プロセスについて学び、実際のケースに対する能力向上のためのロールプレイやグループ学習を取り入れた授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1 レポートの評価は、全員が標準レベルに達していたが、問題を掘り下げて考える力が不足していた。 2 演習なので、何をどのように予習したらよいかわからないとのことであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1 C P 本科目は、必修科目であるので、学生は義務的に受講していたが、少人数の演習なので真面目に受講していた。成績も標準レベルに全員が到達していた。内容的には妥当であると考え。 2 D P 成績評価では、面接技術や児童虐待ケースへの対応プロセスについての理解や知識は修得したようである。課題の掘り下げには物足りなさを感じたが、社会福祉士として備えていなければならない知識を学ぶことができたと考え。内容的には妥当であった。 3 まとめ 以上から、内容妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

- 1 面接技術の向上に向けて、ロールプレイやグループ学習を行い、現場で役立つ能力を身に着けさせる演習を行った。
- 2 具体的事例を多く集めて解説を行う。
- 3 専門用語に日頃から慣れていくように支援を行う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

知識・理解においては、一定にレベルに達することができた。今後は、社会福祉士としてしっかり面接技術を向上させ、問題を抱えている人々への支援ができるように指導していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	各時間におけるテーマに沿って学生に担当課題について予習し、調べプレゼンテーションを求めるため、当該学生は調べ、完全とはいかにまでも理解し、他者へ伝え様々な意見を共有すること目的としている。内容について講義で未学習の部分もあるが、予習を兼ねて授業を組み立てている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	他者の前で、発表したりグループ討議を運営したりと、経験の少ないものであったがそれぞれ努力していた。知識理解については相談援助に係わる講義の授業と並行しているためうまく整理がついていない部分もあった。全体的にはみるとやや達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉学科の木の根幹科目であり、2年次後期以降の授業に繋がる科目であり、今後の授業内容の理解等を統合してでゴールに向けていく重要な科目である。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生自身が担当している課題については、予習・調べ学習が成立しやすいが、それ以外の学生の参加度をどう高めるか、参加学生とともに授業の意図と合わせて共有を深めていく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

2年次の前期の演習科目として、全体としてはやや達成できたと考えられる。後期以降の他の教科の学習を統合して学生が福祉専門職としての知識技術を高めることができるように礎を築けるように今後も授業を工夫したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目であり、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。一方で、対人援助職をめざす学生にとって重要なコミュニケーション力や面接技法について習得する内容であり、学生の学習意欲を高めると同時に実践の基礎となる力を習得できるよう、ロールプレイの実施、具体的な支援事例を提示してグループディスカッション形式での事例検討など、授業内容と授業方法を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解 (DP1)、思考判断 (DP2)については、ワーキングシートや最終課題であるレポートの記述内容から一定程度の学びが得られたと考える。また、技能表現 (DP5)においては、授業中の取り組みの様子やアンケート結果から、個人間での差異はあるものの、クラス全体としては一定程度達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。学生の授業への関心や学習準備性にはばらつきがみられたものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」の平均値が3.9と低い値であった。提出物やレポートについての評価基準は提示していたが、グループディスカッションやロールプレイの実施についての評価において学生に戸惑いがあったのではないかと考える。この点についてねらいと行動目標を具体的に示すことによって克服していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成度自己評価の結果と学生の授業中の発言や提出物の記述などから、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。さらに学生の学びを深める意欲を高め、自発的学習に結びつくよう工夫していくことを来年度の課題としたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅳ	3	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅲ（2年次後期）及び相談援助演習Ⅴ（3年次後期）と連動し、教員5名のオムニバス形式で展開している。主な内容は各教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（72.4%）、「必修科目である」（60.3%）が見られ、社会福祉士取得を強く意識した動機がうかがえる。一方で「関心のある内容である」（1.7%）となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均79.1点であり、この点では教育目標はある程度達成されたと考える。各DP項目について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う4.8%、わりにそうだと思う57.1%）であり、目標はやや達成されたと言える。「思考判断」（DP2）は「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う4.8%、わりにそうだと思う49.2%）となっており、目標はやや達成されたと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う12.7%、わりにそうだと思う50.8%）であり、目標はやや達成されと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う6.3%、わりにそうだと思う49.2%）であり、目標はやや達成されたと言える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う11.1%、わりにそうだと思う41.3%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う9.5%、わりにそうだと思う46.0%）であり、目標はやや達成されたと考える。 この他、学習量の評価や図書館の利用状況から学生の主体的学習態度という点ではやや課題が残るものの、総じて教育目標はある程度達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の平均点79.1点や授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価を見ても教育目標はある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラム上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは相談援助実習（3年次）の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教育目標はある程度達成されたと考えるものの、学生の学習量の確保や自発的学習態度の涵養という点では課題が明らかとなった。既述の通り、本科目は相談援助演習Ⅲ・Ⅴと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。今後も担当教員間の連携を十分に図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	嶋村 美由紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者の生活支援システム	2	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、選択科目にも関わらず「必修科目である」が18/37人おり、「資格取得に必要」が31/37人と、なっている。精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答したと考えられる。学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、講義の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。学習量の評価について、授業の課題以外に学習に取り組んだかの問いについて、していないと答えた学生が28/38人であることを受けて、次回からは、自発的学習が積極的に行われるような導入をする必要があると思う。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は88点であった。理想的レベル(80点以上)に到達した学生は37名と、全体的な到達度は達成されたと考えている。最高点は92点、最低点は66点と、理解度に大きく差が出ている点については今後、個別の理解度を高めるような仕組みが必要であると考えている。意欲関心に関しては、毎回の授業の振り返りシートの記入により、高まっていたことがわかるため、達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	【DP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について】 本科目は「専門教育科目」の中の精神保健福祉関係科目であり、1年後期から始まる精神保健福祉士コースの科目の制度系科目の積み上げに位置する。精神保健福祉士国家試験受験科目として、受講する学生がほとんどであるため、資格を取得した後の専門職になった時に必要な知識や理解、興味関心を広げ、精神保健福祉士としての視点や役割が理解できるように授業を進めて、2年後期の援助技術系の科目への橋渡しとなっている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価においては、「学習量の評価」で、どのような文献等を読むべきか迷ってしまった、何をしたらよいのかわからなかった、時間がなかった、忙しかった、といった記述があった。読んだ方がよい文献の提示についてニーズがあることが分かったので、お勧めの本や、具体的な予習復習の方法について、示す必要があると考える。一方で、歴史などをまとめた、精神障がいに関する本を読んだ、関連のあるテレビをみた、復習した、といった具体的に取り組んだ学生もいたため、頻回に、紹介したり促したりすることで、具体的に行動できる学生が増えていくのではないかと考えるので、次回はより多くの機会を設けて、文献紹介や具体的な勉強方法について、一方向での説明に終わらずに、学生とやりとりをしながら双方向の情報提供を組み込んで行こうと思う。授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、の項目が平均点3.0で、他の項目に比較して低かった。講義系科目であるため、話し合ったりする機会を多く作れないのが現状ではあるが、事例を考えたり、現状の課題について扱うコマの中で、話し合う機会を作っていくようにしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	精神保健福祉士を目指す学生がほとんどの受講生をしめる本科目において、学生の勉強への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。授業外での学習を促すための課題を設定したり、それぞれの学生に合った勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができるのではないかと考える。次回から、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であることから、他の受験資格科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件々々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行ったり、前期のみの講義で、30コマあることから学修状況確認のために、16回目に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、80点以上が約3割を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、幅広く障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するための専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格を取得しない学生の受講もあったが、障害福祉や医療福祉領域に興味があるということで、意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度も昨年度同様に授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が3.4と低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思いますが、可能な限り事例等の導入をし、アクティブな活動を入れ込む努力を行った。しかし、工夫が足りなかったのかもしれない。次年度に向けて更なる工夫をすることを課題としたい。学術データベースの利用に関しても、利用の仕方からのインフォメーションを行ったにもかかわらず、昨年同様殆どなされてなく、更なる工夫をしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて講義を行ったが、2年次に精神保健福祉に関する他の講義等を受講していない学生（進路変更者等や、障害福祉領域、医療福祉領域に関心を持つ者）も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後期にこの講義のⅡが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習に関して具体的な指示を出すようにし、理解を深めていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	3	前期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生を見ると、受講動機としては資格取得に必要である63%、必須科目である47%、単位数を確保する11%、と大多数の学生の受講動機はかなり高く、積極的に授業に臨んでいるものと考えて講義を進めた。その際、国家試験問題を参考にして最低限のレベルは維持することに努めた。また、意欲を高めるために、随時、過去の国家試験問題を提示した。 ②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」として、授業毎に、受講者が「講義の感想、質問、意見など自由に書いてください」と記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業の冒頭で質問には出来るだけ答えた。さらに知識の足りないところを補ったり、修正したりもした。このことは、知識を深めた、授業への参加意欲を高めることにつながったと考える。 ③代表的な精神疾患に関しては、講義の初めに模擬患者のイメージVTRを5～10分間提示し、そのうえで講義を行うように努めた。 ④毎回、講義の最後に、「本日の講義の要点、キーワード」として4～5項目を板書し、学習の一助とした。 ⑤学期末試験前には、30回の講義の中でも特に重要と思われる項目に絞り、試験前の学習（復習）意欲を高めるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績をみると、平均点77.0点であり、再試対象になりそうな学生にはレポートを課して知識理解を補ったことなどから、目的はほぼ達成されたと思われる。 ②上記の「自己学習記録」における学生の記載内容からも毎回の講義の理解度が大略確認された。 ③学生の「学習到達度の自己評価」 回答者21名中、肯定的回答が19、否定的回答は2であったことから裏付けられた。 ④「学習準備性」は、昨年度と比較すると予習に対して否定的回答10(48% ← 昨年82%)に対して肯定的回答は11(52% ← 18%)であり、かなりの改善が見られた。復習に対しても昨年度との比較はできないが、否定的回答8(38%)に対して肯定的回答は13(62%)であり、後者が上回っていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は、「専門科目」であるが「専門基礎科目」と「専門応用科目」の両者にまたがる科目である。この役目を果たすべく講義においてはある程度の 工夫をしたが、学生も一定の成績を収めているところから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 「受講動機」等を検討した結果、内容的にも妥当であると考ええる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 30回の講義において精神疾患の全般にわたって理解し、治療法の基本を習得させるには、毎回の講義がそれぞれ一応完結することが有用だと考えて実施している。各テーマにより密度の濃さ（量的差異）が生じるのはある程度は仕方がない。昨年度の学生の意見を参考にして可能な範囲で調整を行ったところ、今年度は、この点に関して要望を提出したものはいなかった。 ② 「学修のための情報利用」等 「シラバス」を履修の参考にしたかどうかに関しては、肯定的回答 8（32%）、否定的回答 13（68%）であった。 「図書館の図書、雑誌」を活用したかどうかに関しては、肯定的回答 1（5%）、否定的回答 20（95%）であった。 「インターネットのホームページを検索し利用」したかどうかでは、肯定的回答 6（29%）、否定的回答 15（71%）であった。 「学術データベース」を活用したものはなかった。 このように、様々な情報活用の機会が準備されているにもかかわらず、これらの活用者は少数者に限定されている。講義の前半でレポート作成課題を課しているが、教科書や授業から得た知識の整理と感想のみで、複数の参考資料・文献を取り上げているものは極めて少数である。福祉学科では1年生の必須科目の一つに通年授業の基礎演習が組まれている。年間を通してレポートの作成と発表等を学んで来たはずであるが、3年生では殆んど生かされていない。2年生でもレポート作成課題を課して継続的に指導してゆく必要があると考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 1年半後の国家試験の成績結果で最終的には評価されるが、ほぼ達成されたと考える。②課題としては、以下のようなものが挙げられる。i) 如何にすれば、学生たちがシラバスを読んで授業に臨み、授業に集中できるようになるか。ii) 学生の要望に応え過ぎると、かえって自助努力の気持ちを殺ぐことにならないかという点を危惧する。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	福祉の領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として、心のメカニズムを究明する心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。内容的には理論的要素の強い学問領域であり、特に脳の働きと人間の行動との関連に重点が置かれているために、文系の学生には理解しにくい学問と言えるであろう。また高校までに生物を学んできたかどうかで、学生間の学修準備性は大きく異なると考えられた。従って第1回目の講義において「生物を学んだことがあるか」について口頭で問うたところ、半数以上の学生が生物を学んできていないようであった。そのため脳の働きを説明する前に、ニューロンの役割など基本的なところを細かく解説し、対応した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成されなかった	達成されなかった			達成されなかった	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は60.2(±13.6)であり、最終的に単位を取得できなかった者は受験不適格者及び追再試験欠席者含め5名であった。追再試験受験者数が34名と過去最多であったが、本試験の回答内容及び追再試験合格者数を検討する限り、本試験にあたって準備不足の者が多かったと考えられる。また何度か「分からないところはそのままにしておかないこと」「レジュメや教科書で分からない場合には心理学の他の教科書などを読んで復習に努めること」等指示を行ったが、学習量の評価を見る限り復習を行った者の人数、及び回数共に十分ではなかったと言えるのではないかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉学を学ぶ上での基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致する科目であるといえるであろう。学生も「必修科目である(実際には選択科目であるが)」、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と考えている者も多いため、内容的妥当性があるものと考えられる。一方DP及び行動目標から検討するとDP1、4ともに達成されているとは言えず、方法的妥当性の問題があると考えられる。昨年度に知識理解を向上させるように復習を促していく事を課題として提示したが、それが十分に伝わっていなかったものと考えられるため、さらに復習を推奨していく事が必要であろう。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」という項目の平均値が3.4と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くなかったと考える。しかしながら復習機会が少ないために授業で理解したことが定着しておらず、再試験を受けた学生の話聞く限りでは、「試験間際になって急いで勉強したが間に合わなかった」と答える者が少なくなかった。理解を定着させるためには復習が必要であることを何度も指示していくしかないと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の内容を1年前期に実施するようになり、後期に実施していた頃と比べると明らかに成績の平均値が低下している。これは学修準備性と大学での学びや試験範囲の広さに慣れていないためと考えられる。授業後の感想においては「〇〇について十分理解できていないので、復習しておきます」等の記述が多くみられるものの、それが行動に結びついていないようであるため、範囲の広さ等については何度も説明をしていかなければならないだろう。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版K式発達検査・田中ビネーV、WISC-IVに関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い場面を設定した。また各検査項目を体験した後に、子どもが検査に回答するにあたり、どのような能力が関与するのかを考えさせる機会を設け、所見の書き方や読み取り方についての視座を与えるように努力した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は77.09(±13.79)であった。SDが大きいのは、履修放棄した学生の成績が含まれているためと考えられる。その者を除いた場合の平均値は75.7(±7.21)となった。学生の自己評価も全ての項目において3.5-4.1と高く、特に「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に着ける事が出来た」の項目で4.1と高く評価している点については、本演習の目的にかなった結果であると理解している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「福祉心理臨床の応用と展開」に位置づけられており、内容的に学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格に必要である」と考えている者が50%と多いため、内容的妥当性があるものとする。DP及び行動目標から検討すると、DP2,3,5のいずれもその達成度は標準以上であると評価しており、内容的にも方法的にも妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」3.7、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」3.9、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」4.0といずれも高い平均値となった。演習という形態の授業であること、授業の実施にあたって重点を置いてきたことと合致した結果であると考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことを目的とした科目として位置づけられているが、学生の到達度評価から、学生自身が爽籟自分が目指す職業に役立つものととらえている様子がうかがえた。また成績の平均値も標準的であるため、その教育目標は達成できたものと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機によると、本授業は、資格取得に必要とした学生20.7%、単位修得のためとした学生58.6%、関心のある内容であるとした学生31.0%、教員に勧められた6.9%から成っていた。 ①本授業は発達の後期にあたる「青年期、成人期、老年期」を取り扱っており、まだ学生が経験したことのない発達段階も含まれていることから、家族などの身の回りの年長者、将来仕事上で遭遇するかもしれない被支援者、そしていずれ自分自身にも訪れるものであることを意識してもらいながら、理論や知識を提供するようにした。 ②初めに全体的な様相を示し、その後、身体・運動・感覚・記憶・認知・知能・家族生活・社会生活等各領域ごとの発達の変化について、データや理論を提示しながら説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	31名の受講者のうち、ほとんどの者が単位を修得することができた。 成績の度数分布は、A3.2%、B22.6%、C54.8%、D12.9%であった。 学生の自己評価では、ほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」と答えている。 予習復習はできるように次回の授業内容についての予告を行うなど工夫したが、配布資料を中心に授業を展開したため、十分に予習することができなかった可能性がある。 図書館利用者が少なかったのは、本授業が基本的知識を修得する科目であるため、学生が授業内容を重視した結果、図書館等で新たな知識を得る行動に至らなかったのではないかと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、1年後期の発達心理学Ⅰの後に続くものとして、2年前期に設けられている。 発達心理学Ⅱは「青年期、成人期、老年期」の発達心理学を学ぶものであり、人間理解の科目として、実習前に設置されていることは妥当であると考えられる。 学生も概ね苦勞なく取り組めており、授業内容としても2年次前期にふさわしい内容になっていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の意見として「パワーポイントの内容や説明の仕方が分かりやすかった」とあり、引き続き、分かりやすさを心掛けていく。 また、「要点をまとめたレジュメを欲しい」という学生の意見があったが、知識理解に重要な項目を取り上げたレジュメはすでに配布している。また、自ら要点を整理することは、学生自身の知識理解や思考判断を向上させるものと考えられる。したがって、その作業に困難を示す学生に対しては個別の指導を行えるよう、積極的に学生とのコミュニケーションを図っていきたい。例年、個別指導に比べると学生には伝えているが、より指導を受けやすいよう、授業の最後に質問の時間をとるなど工夫していく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね達成できた。 授業内で理解できたとする学生の意見があり、ほとんどの学生が単位修得することができている。 しかし、内容理解に苦勞した学生もいるようであるため、予習復習の課題を提示する、個別に質問できる機会をより分かりやすく提供するなど工夫していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達臨床心理学演習	4	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	4 年前期開講科目であり、学生は88%が資格取得に必要なであると答えているように、認定心理士の資格を取得することを希望する学生が大半であったため、心理系科目の積み上げにより、論文講読に十分な知識と経験が得られていることを想定した授業展開を行った。 ①前半は、調べてきた論文を小グループで発表させ、少人数にすることによって積極的に議論に参加できるように促した。 ②後半は、全体で調べてきた論文について発表させ、学生それぞれが感じたことを出し合うことによって、様々な視点から論文を検討することができるようにした。 学生は積極的に授業外時間に論文を読んだようである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	やや達成されたと思われる。 積極的に研究論文を読み進めること（意欲関心）、また研究論文を読みその要点について整理し（知識理解）、意見を述べたり発言をすること（思考判断）は概ねできていた。特に、一つ一つの論文についてその要点やその発展性について議論することは概ねどの学生もできていた。 しかし、複数の論文からその研究成果を分析、検討して今後の発達臨床のあり方について述べるという課題（意欲関心）には、議論への参加に消極的な学生、レポートにおいても十分な成果を出すことができない学生（態度）がみられた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	4 年前期開講科目であるが、既に基礎的な知識を「発達心理学」や「福祉臨床心理学」のなかで学んでいるため、卒業研究や卒業論文を進めるうえでも、卒業後に役立つ最新の知見を得るうえでも、発達臨床心理学に関わる論文に触れることは、妥当であると考えられる。 ①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、福祉心理臨床の応用科目であり、内容的に妥当である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 意欲関心、態度の項目に関する達成度が比較的低かったが、課題に向かう準備状態を授業内で十分に作ることができなかった可能性がある。内容的には妥当であったと考える。来年度、方法的妥当性を検討したい。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①論文についての発表及びディスカッションは積極的な学生の参加がみられ、十分達成できたと考えられる。

②最終課題として課した、複数（3本）の論文の比較検討には、学生によっては難しさがあったようである。課題量と出し方を調整し、レポートの質の向上に繋がるような指導を行っていく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

個々の事例の理解の深まりはどの学生にもみられた。今後、複数の事例から発達臨床についての理解、発展への展開を多くの学生とともに展開していけるよう、授業の進め方、課題の提示のあり方の改善を図りたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者心理学	3	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	第1回目の授業において、障害と障害のある人に関する知識を把握するために、学生に小レポート（「障害とは？」）を課した。その結果、障害の概念や障害のある人の心理特性・生活に関するイメージが十分にできていない学生も多かったため、それぞれの障害についての定義、及び概念の整理を重点的に行った。また障害があることによって生じる生活上の困難、発達上の諸問題について事例を挙げながら説明し、イメージの具体化を図った。さらに障害者を家族に迎える際、家族と彼らの生活にどのような影響があるのかについて解説することを通して、障害者への包括的な支援の在り方についての視座が得られるよう努力した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は63.5（±16.3）であったが、履修放棄をした学生が1名おりその者の成績を外した場合その平均値は65.22（±12.41）と平均値はやや上昇、バラつきはやや低下した。最終的に単位を取得できなかった者は8名であった（内1名履修放棄、再受験未受験者5名）。概ね75点を標準として試験を作成したが、標準的レベルに達している者は約3割と限られていた。学生の評価として「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」3.7、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」3.7とともに好評価であったが、ほとんどの学生が復習をしておらず（0-2回までしかしていない者が97%）、授業以外の学習にも取り組んでいなかった（73%）。以上の事から意識が行動に結びついていないところが懸念材料である。推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりすることで、自己学習に結びつくように促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、その内容は学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格取得に必要である」（25.0%）、「関心のある内容である」（60.7%）と考えている者が多いため、内容的妥当性があるものと考えられる。DP及び行動目標から検討するとDP1、2、3いずれも十分に達成されているとはいえず、方法的妥当性の問題があると考えられる。本講義を通して、障害者や彼らの生活、心理特性についての興味関心が高まっているものの、それが行動に結びついていない学生が多いと考えられるため、推薦図書等を積極的に紹介したり、ボランティア活動への参加を勧めたりしていこうと考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.7と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くないと考える。そのため成績の平均値が低かったのは学習量に問題があったのではないかと考えられる。予復習に加え、障害者と積極的にかわる機会を増やしていく事を推奨したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	成績の平均値が想定していたよりも低かったものの、学生の自己評価の結果から、知識の拡充や意欲の向上に一定の貢献を果たしていると考えられる。しかしほとんどの学生が予復習や授業以外の学習に取り組んでいないなど、意識が行動に結びついていないと考えられるため、上記の方法等で自己学習、実践的な学びの機会の重要性などについて触れていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義はカウンセリングの構造とそのプロセスを総合的に取扱い、クライアントの状況に合わせたカウンセリングの技法について理解を促すことを目的としている。カウンセリングの諸技法については、社会福祉士の必修科目である「相談援助演習Ⅰ」において学んでいるため、技法そのものについての知識は一定程度はあるものと考えられる。しかしながら、技法の理論的背景や状況に応じた技法の用い方、留意点については相談援助演習Ⅰで網羅することは困難であろうと想定されるため、これらの理解を促していく事に重点を置いて授業を展開した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は70.97(±16.70)であったが、本科目では履修放棄をした学生が2名おり、その者の成績を外すとその平均値は74.78(±5.97)と標準的なレベルに到達できたと考えられる。学生の自己評価も全ての項目において3.6~4.0と非常に高い数値を示しており、将来自分が目指す職業に役立つものにとらえている様子がうかがえたため、その教育目標は達成できたと評価している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉心理臨床の応用と展開の中に位置づけられており、学科のCPとも合致すると考えられる。学生も「資格取得に必要である」(36.7%)、「関心のある内容である」(53.3%)と考えている者が多いため、内容的妥当性があるものとする。DP及び行動目標から検討すると、DP1,2,3ともにその達成度は標準以上であると評価しており、内容的にも方法的にも妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前回の課題であった「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が2.8→3.3へと向上し、標準的レベルに到達したと考えられるため、課題は達成できたものと評価している。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「福祉心理臨床の専門を学ぶ」ことの入り口の科目であるが、学生の到達度評価から、学生自身が「将来自分が目指す職業に役立つもの」とらえている様子」がうかがえた。また成績の平均値も標準的であるため、その教育目標は達成できたものとらえている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
医学総論	2	前期	必修	いいえ	91

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	医学・医療に関する基本的な知識は、福祉の仕事に必要なだけでなく、自分自身の健康管理にも重要です。主要な疾患にポイントを絞って、社会福祉士の国家試験問題にも関連させて、できるだけ簡潔に解説を行いました。授業中に折に触れて、「命の大切さ」にも言及したつもりです。 また、授業評価アンケートの受講動機をみると、「必修科目である」「資格取得に必要である」が大多数ですが、「関心のある内容である」も一割以上あります。興味をもって授業に臨んでくれたことを嬉しく思います。 昨年度に担当教員による授業内容の差異をなくすために改善計画を立て、今年度からひとりの教員が全講義を担当することにしました。これにより、講義に一貫性が生まれたと思います。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験の平均値は84.5点(最高100点、最低点60点)であり、60点未満の再試対象者はいませんでした。秀:39名、優26名であり理想的レベル(80点以上)に到達したひとは全体の72%でした。全員が標準レベル(60点以上)に到達したと判断しました。 福祉学との直接的な関連が乏しい領域にもかかわらず、期末試験の成績が良かっただけでなく、学生さんの授業態度も良好でした。 授業評価アンケートの到達度自己評価をみると、いずれの観点においても「ままそうだと思う」以上の達成感を示す回答が大多数です。皆さんが真面目に勉強した表れだと思います。コミュニケーションや表現力に関する自己評価の達成度が低いのは、座学の系統講義であるのでやむおえないところもあると考えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉学科の「専門教育科目」のうち「保健・医療関係科目」に属します。医学・医療に関する基本的な知識は福祉の仕事に必要です。社会福祉士の国家試験にも医学・医療に関する問題が出題されます。 学生さんの受講態度、試験の結果、到達度自己評価などからみて、カリキュラムマップ、DP、CPにおける位置づけからみて、内容の妥当性に問題は無いと考えます。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	j]授業評価アンケートの授業の質評価をみると、大部分の項目で「まあそうだと思う」以上の評価を得ていますが、自分の意見をまとめる、発表するなどの学生参加に関する項目は評価が低いです。系統講義ですのでやむおえないところもありますが、次年度は出席カードに課題を加えるなどの工夫を行いたいと思います。 自由記述では講義内容やスタイルに肯定的な意見がおおく、次年度も基本的に今年度と同様の形式を継続したいと思います。ただ、社会福祉士国家試験の過去問題の提示の仕方に意見がありましたので、次年度は工夫をする予定です。 授業評価アンケートの学習量をみると、30分程度の予習復習を2回以上行っている学生さんは三分の一程度でした。また、図書館やネットを利用して勉強したひとは少数でした。次年度はもっと学生さんが自分で勉強したくなるような授業内容にしていきたいと思います。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は福祉学科の学生さんにとっては馴染みが薄い内容であったと思いますが、皆さんが興味を持って積極的に取り組んでくれました。多くの学生さんが理想的レベルに、全員が標準的レベルに到達することができました。 今後の福祉科目の勉強や、将来に福祉現場で働く際に本科目で学んだことを活用して貰えれば嬉しいです。看護学科の教員として福祉学科の学生さんに講義が出来たことに感謝しています。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	小林 繁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
解剖学	2	前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1講義1テーマにして、1回完結型の講義にした。しかしながら、最終試験を教科書持ち込み可としたために、学生の事前学習準備は不十分であったと考える。今後は、この方針を変更したいと考えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価は、秀40%、優30と高い評価が出た。図書館の利用、インターネット等の利用が少ないので、学生の予習、復習を促す方向で講義を組んでいきたいと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、必須科目、資格取得に必要である。関心のある内容であるという積極的な受講者を増やせる内容を考えていく。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館の利用、インターネット等の利用が少ないので、学生の予習、復習を促す方向で講義を組んでいきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成度は評価できるが、この分野における学生自身の情報発信力をつけるようなカリキュラムを計画する。学生の予習、復習を促し、図書館の利用、インターネット等の利用を勧める方向で講義を組んでいきたいと考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健 I	2	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。特に、保健学習については、保健管理を専門とする養護教諭にとっても、知っておくべき内容であり、また養護教諭自身が保健学習を担当することも期待されていることから、学習指導要領等の内容についての解説を充実させるようにした。 また、授業の準備性を高めるため、開始時に動機付けとして教員採用試験等の状況について説明した。 「学修準備性」については、受講動機を見ると、資格取得と回答したものが35名中31名であり、高い動機が伺えた。自由記述において、オリエンテーション時に言及した「新聞等で関連内容を適宜読むように」を実行している学生もみられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭になるため基礎的な科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.2であり、知識理解は達成できたと考える。また、思考判断・意欲関心について、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が4.0点、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が3.9点であり、学生自身の到達度自己評価としては概ね良好な結果であったと考えられる。 一方、技能表現については、講義形式で座学が中心であったことから、達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.9点、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が3.4点と低くなっている。今後の課題として検討したい。 全体を通して、最終的な成績の平均点は84点、再試験対象者は0名となった。授業の予習復習や指示課題については取り組む姿勢が見られたが、指示された課題以外の学習に取り組むものの割合が、36名中2名と極端少ない。課題を指示するだけでなく、参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。また学校保健を専門的に学ぶ導入的な位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としても記述式の期末試験を課し、学校保健に関する基礎的な知識と共に、自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容の妥当性に問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方について、自由記述を見ると「授業の説明と進め方がとても分かりやすかったです」「わかりやすい授業ありがとうございました」「授業分かりやすかった。病欠して悔しいと思った授業はこれが初めて」等の肯定的な意見が多く、概ね良好であると考え。一方、予習復習に取り組んでいない学生が6割以上おり、授業の課題以外の学習については、図書館や学術データベースを利用するものが見られなかったことから、授業外の自主的な学習を充実させる取り組みが必要であると考え。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合的評価として、概ね良好であると考え。本講義を担当して3年目となるが、学校保健は広範な内容を取り扱うため、学校保健IIにつなげられるよう、基礎的な理解に重点をおいた。授業の進め方については肯定的な記述が多く見られたことから次年度も継続して授業改善を進めていきたい。一方、基礎的な知識の修得に加え、発言の機会を増やしたり、ブレインストーミングを取り入れたりするなど、前年度よりも双方向的な授業になるよう心がけたが、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」に対して「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」者がみとめられたことは前年度に引き続き反省点として挙げられる。また、上記の通り、自主的な学びにつながっていないことも次年度に向けての重要な課題であると考え。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	吉田 あや子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職養護教諭一種免許状取得の4年生では必修科目であるため、養護実習3週間の時期と重なるので、全員がそろうことが少ない。しかし、昨年よりも全員ができるだけ揃って学習できるように工夫を行ったり、分かりやすい教科書を使用し、配布資料や授業の進め方を工夫した。さらに養護実習中で欠席する学生には学びにつながる具体的な課題及び学習方法を指導し、またフォローも行ったことで、学生の不安等が解消されたと考える。②アクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れ、学生の学びが深まるような工夫を行った。その結果、学生は事例分析、役割演技等にグループのメンバーで協力して取り組み、養護教諭の対応力等をたかめることができたと考える。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.36 (±5.39)点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したと考える。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは20名と高い結果であった。目標別に見ると、知識理解・思考判断・意欲関心・技能表現等のすべてにおいて80%以上であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するかについては事例分析や事例のロールプレイ等で役割を演じたり観察者として参加することで知識を応用する力・表現する力が身についたと考える。また、昨年度までと同様、学びを深めるために「授業の最後」に各自の学習カードに記入することとした。このカードから授業に対する興味・関心・意欲が高くなるとともに取り組みの姿勢・態度及び表現力等が日々の積み重ねで培われたと考える。教員採用試験の対策については、授業の中で出題ポイントを提示するよう心掛けた。しかし、基本的には理論を理解したうえで実践に生かせるような内容と方法を心がけた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、教職資格に必修であるため、基礎理論を踏まえた上で、養護教諭の実践につながるように演習を組み入れている。学生も熱心に取り組むことができたことから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 定期試験、課題学習、レポート等の成績評価から知識理解・思考判断・意欲関心・技能表現・態度等すべてにおいて高い結果であったことから、内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	理論を理解したうえで実践力を習得することができるように授業展開を工夫した。基本的な理論を理解するのに事例を提示して説明を行った。また、応用演習等でも事例分析、ロールプレイなどグル習を組み入れたことから、殆どの学生の興味関心が深まったと考える。全員の履修者が図書館やインターネットなどの調べ学習、体験学習を能動的に行うように導いたが、全員に浸透できなかったのが残念である。また、履修学生の要望を把握するために毎時間コメント・感想カードを取り入れ、実施した。しかし、養護実習3週間の時期と重なるので、全員がそろうことが少なく、長期間空いてしまうと授業内容を忘れてしまう学生がいることがわかった。これは想定されることと考え、養護実習中のため欠席する学生には学びにつながる具体的な課題及び学習方法を指導し、またフォローも計画的に行ったが、容易ではなかった。さらに改善が必要と考えている。くわえて、この科目については、開講時期による長所と短所があるので、毎年度苦慮しているのも事実である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	地域保健学Ⅱ「養護教諭が行う健康相談の理論と方法」は、養護教諭専門の必修科目としての位置づけから基礎的理論と方法を理解したうえで、実践に向けての技術等を修得するものであるが、成績評価等から概ね達成できたと考える。昨年は予習に取り組めない学生がみられたので、本年度は事前に学習課題及びねらいを具体的に示すようにした。しかし、全員の実行は困難であった。 全体として、授業過程を振り返ってみたとき、殆どの履修者にとってアクティブ・ラーニングの授業を行ったことについては、おおむね良かったと思われる。改善すべきところは改善して、良い授業を目指していきたい。

学科	福祉学科
氏名	原 百合

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎看護技術	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭資格取得のために必須の科目である。学生の受講動機を見ると、「資格取得に必要である」92.9%、「必修科目である」25.0%となっており、資格取得に向けた意識が高いことが推察できる。また、その他の動機では「関心のある内容である」が21.4%で、前述の2項目を合わせた3項目のみの選択であったことから、受講に対する意欲が高いことがわかる。 授業内容は、教員（養護教諭）採用試験問題を確認し、その内容に関連するものを取り入れている。また、毎回のテーマに関する最新の情報を検索し、講義内容に取り入れるようにした。学校現場で起こりうる健康上の問題については身体面に絞り、理論や最新の情報に基づいた対処方法が理解できるよう考慮した。 ②本科目は既習の医療系の知識に基づいた内容となっているが、これまで受講した学生の状況から、解剖・生理学の知識が身に付いていない学生が多い。そのため、1回目の授業で解剖・生理学の知識について、学生の学習準備状況を知るため、および復習を兼ねて、また、授業内容の理解を円滑にするためという目的で、課題を課した。 ③授業には、看護技術を実施するための理論を20～30分程度の講義として取り入れ、演習で技術の習得を目指した。 ④授業内容の理解が得られるよう、毎回のオリエンテーション資料に次回の内容についての教科書の該当部分を示し、事前学習することを勧奨した。 ⑤昨年度の課題として、予習の必要性の説明や内容の重要な部分を強調することで知識理解と思考判断が身に付けられるようにすること、講義の内容を見直して時間に余裕を持たせるなど授業の進め方の工夫が必要であること、評価基準の十分な説明があった。予習の必要性の説明や重要な内容の強調については、毎回の授業において取り組んだ。また、講義内容の見直しは、授業資料の作成時によりわかりやすい資料を引用したり、内容を割愛したりした。評価基準の十分な説明では、1回目の授業と課題を課す際に説明を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合点の平均値は78.0 (±13.3) 点で、再試験対象者は2名であった。標準的レベルに達した学生は29名中17名 (58.6%) であり、理想的レベルに達した学生は29名中8名 (27.6%) と少ないが、昨年度と比較すると増えている。 知識理解と思考判断は筆記試験で確認し、平均値は35.7 (±6.6) 点 (50点満点) であったが、4名 (13.8%) の学生が標準的レベルに達していなかった。技能表現は看護技術の実技試験で確認し、平均値は24.9 (±3.1) 点 (30点満点) で1名が標準的レベルに達していなかった。理想的レベルに達した学生は21名 (72.4%) であった。意欲関心と態度は、9.0 (±2.0) 点 (10点満点) であった。 学生の到達度自己評価では、「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目で「少しそうでないと思う」と答えた学生が1～3名いるが、その他の項目では全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」の範囲で答えており、昨年度と比較すると上昇している。学習量の評価では、予習については1回、復習については2、3回と答えた学生が最も多く、予習と復習の必要性に対する意識はまだ高くないが付いてきたと思われる。必要となる技術を身に付けることについては、全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」と答えているが、前述の実技試験の成績からは、技術の習得は一定のレベルに達していない状況がある。 昨年度の課題であった「授業の質の評価」で、テスト・レポート・提出物などの評価基準について、「かなりそうだと思う」と答えた学生が最も多く、全員が「まあまあそうだと思う」以上で答えていることから、レポートの評価について全員の理解が得られたと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容妥当性 本科目は、養護教諭一種免許状取得のために必要な「保健・医療関係科目」の一つであり、養護教諭一種免許状取得希望者のみが受講できる科目となっている。また、3年次後期からの開講である「看護臨床実習」を受講するために必要な要件となっている。学生の受講動機からは、資格取得に必要なであることの意識が高いことが示されており、総合的な成績が全員標準レベルに到達していることから、内容的には妥当と考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容妥当性 知識と判断を問う筆記試験の成績で、標準的レベルに達していない学生がいたことから、知識が不十分なまま本科目を修了した可能性があり、次年度に向けて評価方法を検討する必要がある。 ③まとめ 以上のことから、内容妥当性としては適切であるが、評価方法の問題があり、次年度に向けて検討する必要がある。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の自由記述には、「説明をもっとゆっくりしてほしい」「実技の時間がもっとゆっくりほしい」「通年または2コマ連続で行うべき」という意見があった。昨年度の評価を踏まえて授業内容や資料を見直し、スピードが速い状況を改善させたが、学生の感覚としては余裕を求めている状況ということがわかったため、更に授業内容の見直しを行っていききたい。 「通年または2コマ連続で行うべき」という意見に関しては、授業担当者自身もそのように望むが単独の判断ではできないため、学科への意見として上げていきたい。 一方で、「実践的でイメージしやすい授業だった」「必要な知識・技術が多く学べてよかった」「わかりやすい説明だった。授業の時間数が足りないように思ったがその中でもうまくやりくりしていた」という意見もあったが、知識理解と思考判断で標準的レベルに達していない学生がいたことから、重要な部分について意識を持たせるように強調することや授業内容の工夫を継続していきたい。 また、「授業の質評価」の内容で、「学生が参加する機会」と「質問する機会」について、それぞれ5名ずつが「少しそうでないと思う」と答えている。次年度に向けて、機会を設けるように工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は、養護教諭一種免許状取得のために必要な保健・医療関係科目という位置付けである。総合的な成績としてはほとんどの学生が標準的レベルに達している。技術面の成績は理想的レベルに達した学生が多かったが、知識・判断の面では課題が残った。3年次後期からの「看護臨床実習」に引き継ぎ、看護技術に関連する知識の充実に継続させたい。 次年度に向けての課題は、予習の必要性の説明や内容の重要な部分を強調することで知識理解と思考判断が身に付けられるようにすること、講義の内容を見直すこと、評価方法を見直すこと、学生が参加する機会と質問する機会を増やすなど、授業の進め方の工夫が必要なことである。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護臨床実習	3～4	後期・前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭の免許取得に必要な科目であり、取得を目指している学生が受講するため、授業に対する意識が非常に高いことが特徴である。また、今期は、3年後期の病院実習を終えた振り返りと学内演習である。3年後期からの科目であるため、受講生達の理解度や関心の方向性は事前に把握できる。そのことから、授業計画を考える上で、不足している知識や技術を中心に進めることが可能であった。その結果、授業評価において「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」がそれぞれ平均値が4.4と4.3と高い値になったと思われる。また、現場に即した実践力を身につけることを第一にしているため、学生達の自由記載の「実践的なものが多くとてもたくさんのことを学べました」という記述はその成果を示していると思っている。昨年度、この科目がスタートする3年後期に学生達の意識が統合科目であることを十分理解できていたかといえ、不十分であったと振り返った。そのため、今年度は、カリキュラムツリーも用いた科目の位置づけを示し、既習科目との関連性を明らかにしたうえで授業を進めていき、授業間の関連性を理解したうえで受講してくれたのではないかと評価している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、学校保健の場ではなく医療の現場を対象としたものであり、受講生にとってはハードルの高い臨床実習であったと考えられる。しかし、実習評価は「養護教諭」としての視点の学びを重視しており、その評価基準の同一評価表を基に、学生と教員の双方で評価して事後指導および口頭試問を実施した。評価表に基づく評価は、学生と教員の乖離はなく、おおむね実習目標と掲げた内容は網羅できたと考えている。本科目の受講生の成績評価は、20名が秀、9名が優であり、平均点は91点であった(科目等履修生を含む)。成績評価はすこぶる良好に思われるが、実際の医療現場での医療者の姿を目の当たりにした学生にとっては、達成の目安が本科目で示しているものよりも高く持っていますため、上記のような評価になるのではないだろうかと推察している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実習を含む科目であるため、トータルの能力が必要であると思っている。そのため、DPについては、全てを網羅すべきであり、このことを意識し授業・実習を進めている。学生達の学習到達度の自己評価の結果を見ても、万遍なくとらえることができていると評価でき、DP・カリキュラムマップの内容的妥当性としては適性であると判断している。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この科目の後半である４年前期は、教育実習や教員採用試験が行われるもしくは、直前に控えている時期であり、学生達の意識はかなり高い。そのため、毎年のことであるが、演習も真剣におこないその間に発せられる質問も質が高いものが多い。学生の自由記述にある「養護教諭になるための知識と技術が大分身につきました」とあるが、演習においては、現場を見据えた指導を心がけ、今年度は、教育実習にも生かせるよう、教育実習前から児童生徒の姿をイメージしやすいよう、工夫した。その結果、教育実習において大いに技術を生かしてくれたことを実習から戻ってきた受講生達から聞くことができた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目の後半である４年前期は、教育実習や教員採用試験が行われるもしくは、直前に控えている時期であり、学生達の意識はかなり高いことは毎年のことである。今年度の受講生は、努力することを惜しまない学生が多かったが、技術においては、基礎看護技術や看護臨床実習前半で習得したはずのものが身についておらず、反復練習の不足が浮き彫りになった。授業計画をブラッシュアップし、繰り返し技術を練習できる環境になるように工夫する必要性を感じた。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	東 泉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬理学	3	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	薬理学は福祉学科において、養護教諭の資格取得に必要な科目であることから、養護教諭を目指す可能性のある学生が主として受講している。例年同様の傾向であることから、養護教諭に必要な薬理学的知識を身につけることを目標としている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①期末試験の成績は平均81(±13)点で再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、80点以上の優秀な学生は全体の53%であった。記述式の答案からも、優秀な学生は非常によく学習していることがうかがえた。 ②学習量の自己評価のうち、「授業に参加するために準備をしたか」「授業をふりかえるために復習をしたか」の項目に「した」と回答しているのが55%と48%と高くはないが、学科の平均(53%と50%)に近い値であることから、半数は積極的に授業に臨む学生で、理想レベルに達することができたと考ええる。 ③全員が標準レベルには達したが、理想的なレベルに達したのは53%であったのでやや達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①学生アンケートによる 「受講動機」は「必修科目である」「資格取得に必要である」「関心のある内容である」「単位取得に必要である」であった。当該科目の授業の初めに行ったアンケートでも、「養護教諭になるため」と答えた学生が多かった。 ②したがって、当科目は、DP1【知識・理解】のうち、「対人援助に必要な基礎的知識を修得」、特にCP2「養護教諭一種免許状の取得できる」CP5「養護教諭として必要な専門的知識を身につける」を目標としている。 ③到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と答えた学生の平均が高かった。授業中に回収したコメント用紙でも「新たな知識を得た」と答える学生が多かった。「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」も平均が高かった。 ④内容としては問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価では「テスト、レポート、提出物等の評価基準が明らかであった」にたいし「そうでないと思う」「少しそうでないと思う」の学生が24%に見られた。本年度、試験の評価基準についての説明が十分でなかったことから、このような回答であったと思われる。 ②「内容が難しい」という意見も見られた。当科目では福祉科学生向けの最適なテキストがなく、看護学生向けテキストを用いていることにも一因があると思われる。学生の目標、背景（他科目でのこれまでの学習内容）も異なるため、評価に関しては看護学生よりかなり易しくしている。15コマという時間の制約がある中で、ある程度の範囲を学習したいので、予習・復習など授業時間外の学習を促進し、より理解が深まるような資料をなるべく配布するようにしたい。 ③「図書館の利用」は10%であった。今後、自習を促す場合、大学図書館の蔵書も確認する必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	受講した半数が理想的レベルに達し、標準レベルには全学生が達成していた。 しかし、内容が難しいと感じ、ようやく標準レベルに達している学生がいることが課題である。 そのような学生にも理解しやすいように次年度は工夫し改善を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	3	前期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①公衆衛生学は必修科目であり、養護教諭資格取得に必須である。内容が幅広く、勉強意欲関心が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」21.4%、「資格取得に必要である」85.7%で、「関心のある内容である」7.1%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。 ②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。 ③授業で使用する資料を配布し、できるだけわかりやすい内容とした。 ④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増す必要がある。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本試験の成績の平均値は84.1(±8.9)点であり、不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達した。 ②「自分なりの目標を達成した」と答えた者は96%で、知識理解については目標が達成されたと考えられる。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は83%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も83%であった。 ④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったので、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、保健医療関係科目」であり、選択科目である。養教一種免許状に必須である。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解については目標を達成した。国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.3で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.0であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.2で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.7であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、課題解決型学習に力を入れて授業を進めたい。 学生の意見として、授業の進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解の面で課題は達成できたが、関心意欲については課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲のさらなる向上を目指していきたい。 授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。 講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育原理	1	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均81.2点(最高点95点、最低点65点、A：5人、D：1人)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.8点を切る項目は無く、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。専門職としての原理原則に関する知識理解を深める科目であり、成績評価が高いことから目標は達成できたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士としての原理原則に関する知識教授を第一義とする講義系科目であることから、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは妥当なものであると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講人数が13人ということもあり、比較的時間的な余裕を持って授業を進行できると共に、学生の反応を確認しながら授業を進行できることが、高い成績評価につながっていると考えます。受講人数が増えた場合に、現在と同じ水準の理解度を得るためには、教授方法においても見直しが必要であると考えます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考えます。受講人数増加の際の対策の検討が必要である。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの保健Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学生の動機がそれに該当する。そのため、資格取得のために受講している感が強く、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において全項目3.4点以上であり、学生の主観的な達成度は概ね高いと考える。学生の経験として、保健技術を取り上げたが、時間確保が十分ではなく、授業評価アンケートの自由記述に関連する内容が挙がっている。また、教授内容が多岐にわたるため、学生が授業についていくのに大変な様子が伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。教授内容に対して授業時間が不足する感はある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であると考え

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育課程論	3	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、約7割の学生の動機がそれに該当するが、基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均87.1点(最高点95点、最低点75点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.6点を切る項目は無く、図書館やインターネットは9割以上の学生が学習に利用しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。授業中のプレゼンテーションについて、グループによっては、内容が十分でないグループが若干あり、やり直し等も行った。そのため、最終的には全てのグループで質の高い発表ができていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に中・長期の保育計画について理解し、立案ができるようになることが最大の目標であることから、関連DPについては妥当であると考え。また、保育計画立案のためには、乳幼児の発達について理解していることが前提となる上に、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考え。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	長期計画の立案に関しては、基礎的な知識の教授後に実演を交えての課題として設定していたが、学生からの質問が非常に多く、講義の中で実演を予定より増やして提示を行った。結果として、学生の理解が進んだと考えられるが、来年度からは、さらに長時間の確保が必要と考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	特に長期計画立案については、長期に渡る家庭学習が必要であることから、授業評価アンケートの自由記述においても時間的な余裕の無さが確認された。とは言え、保育士資格取得の上で特に4年制の保育士養成ということを踏まえると、就職後必ず必要となる内容であるため、教授内容を変更するわけにはいかない。また、時間的な余裕の無さについては意見が寄せられたが、先述のように成績評価上は概ね良好であるため、問題ないとする。今年度も学期当初から、家庭学習が長時間必要になるという説明はしていたが、来年度はさらに強調して説明する必要があると考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 総論	4	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、約8割の学生の動機がそれに該当するが、基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないため、授業準備においては、専門職として最低限必要な内容は必ず盛り込むことと、事例提示や取り上げるトピックについて受講学年の興味・関心に沿ったものを準備するようにしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均79.3点(最高点90点、最低点65点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.1点を切る項目は無く、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。ディスカッションのための資料についても全学生が毎回準備できており、必ず全学生からの発言がなされていた。「資格取得に必要な科目」でありながら、意欲関心が非常に高く、主体的な学びの様子が確認された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業への取り組み、実践現場での模擬保育、授業内のディスカッションの内容、成績評価を踏まえて、授業の進め方は概ね問題ないとする。「図書館利用」において、インターネットよりも図書館を利用した資料収集が多かった。テーマについては再考する必要があると、指定図書等で時事問題にも対応できる資料を準備しておく必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、ディスカッションのテーマ提示等に工夫が必要であるとする。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 環境	3	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、7割以上の学生の動機がそれに該当する。また、開講時には資格取得を目指しており、途中で資格取得を断念したため、授業評価上は「単位数確保」と回答しているが、基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないことと、演習内容として栽培活動があるため、その点については変更しようがない。その他の教授内容については、本年度から事例提示だけでなく視聴覚教材を交えての教授を試みた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均81.5点(最高点90点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全項目が3.4点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。学生の経験として、授業内の「栽培活動」が普段経験していない内容であることから、印象に残ったと考えられるが、栽培活動以外の授業内容や課題についても意欲的に取り組んでおり、課題の提出状況、内容の質も例年に比べ高かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育内容に深くかかわる科目であると同時に具体的に「栽培すること」や「作成すること」といった課題があることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。本年度採用した視聴覚教材については、効果的であると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。授業進行については、年度の学生の状況を踏まえて、資料提示等に工夫が必要であると考え

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、7割以上の学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された			達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均86.4点(最高点100点、最低点70点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全項目4.0点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の表現技術について教授した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	深堀 和枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育	3	通年	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 中高生の時に保育士体験や職業体験で、乳幼児に接した経験がある学生は数名いたが、教科書だけでは子どもの発達等が分かりづらいと考え、保育現場の映像を活用し、分かりやすく説明するようにした。 ② シラバスにはなかったが、講義だけでなく、グループワーク、製作、演習等、技術を習得するために必要と思われることは授業に組み込んだ。 ③ 授業終了時には次回すること、また、準備すべき事がある時は伝達し、授業開始時は先週の復讐を入れ習得度を確認するようにした。 ④ 前期終了後に保育実習があるため、実習前に保育所の自主観察やボランティアを勧めた。数名が積極的に経験したが、次年度は計画的に授業に組み込むことができれば良いと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	達成された		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的な成績の平均値は73点だった。自己評価では、学びを深めたいという意欲を持ち知識、技術を身に着けたとなっていた学生が4、5以上であった。しかし、自分なりの目標を達成したと評価する学生の平均値は3、9であり、課題となった。次年度はこの点を意識して、シラバスの修正をした。 ②試験では発達に関しての正解度が低かったので、小テストをするなど復習の時間を作るよう課題を設けることを検討したい。 ③コミュニケーション力や表現力を高めることについては、自分で考え発表に繋げる機会を設ける回数を増やし授業の工夫をしていきたい。 ④学習量の評価では、「何をしたらよいかわからなかった」「余裕がなかった」という意見があった。学生の意見を聞きながら、次年度は確認を取りながら授業を進めていくようにする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」は必須科目、資格取得に必要なことがそれぞれ60%程度で、意欲的に学ぶ姿勢があり、内容的には事例等を多く掲げていったので妥当であったと考える。 「到達度自己評価」では事象を理解する視点や考え方、的確に判断する力が4、1であった。子どもの発達をおさえながら、「なぜそうするのか」という根拠となる説明をより丁寧にしていくようにしたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	子ども達に実際にかかわる経験がないことで、子どもの姿を想像できないことが分かったため、保育所での実際の活動を見ることで、発達が分かりやすかったという意見が多かった。次年度も授業に組み込んでいくようにする。 「授業の質の評価」では、どれも4以上であった。現場の話や実践に結びつくことが多かったことが学生たちに分かりやすかったと判断した。次年度も楽しい授業にしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今年度初めて「乳児保育」を担当をし、学生たちの気質、受講意欲等を知ることができた。講義と演習の割合を考え必要時間を検討したい。 前期授業の終了後、「保育実習Ⅰ」があり、実習中に訪問した。授業内容に不足していたことが明らかになった点があり、次年度に活かすこととする。おむつ交換等は育児中の親子の協力をいただける機会があればと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	川原 富紀枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	4	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業前のアンケートで、保育士としての仕事に就くことを希望していると答えたのは13.6%、さらに児童養護施設にと考えていると学生は4.5%であった。社会的養護の児童施設などに対する関心度の低さを感じながらスタートした授業であった。実際に受講動機で見ると「必須科目である」68.4%「資格取得に必要である」57.9%、ほかに選んだ項目はなく、例年になく関心度の低い授業であった。昨年とも同様の結果をふまえ、今期はレクチャー、プラクティス、プラスαと3 Stepでの見やすくなりやすい構成で、考え方のポイントもあり、記入もできるテキストに変更してみた。グループワークもしやすいかと感じていたが、到達度自己評価の⑧コミュニケーション力や表現力を高めることができたとの評価が2.8と低い結果であったことは演習授業としては残念でならない。関心を持ってもらえるようにDVDや子どもたちの作文など紹介したり、具体的な事例をあげて関心を引き付けるようにしているが、そのことはそのまま、グループワークの内容についても学生主流の進め方等考えなおして進めていきたい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は73点であり再試験者は0であった。理想的レベル（概ね80点）に達した学生は8名で全体の36%と限られていた。目標別に見ると知的理解に関しては81%、思考判断に関する問題も74%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、またいろいろな方法がある場合に、それぞれの長所や問題点を整理することを問うものであり、特に後者の理解が十分ではなかったことを示している。様々な場面での臨機応変な対応ができる力を培うことが課題であると考えられることから次年度に向けて検討していきたい。意欲関心、態度、技能表現と「やや達成された」にはなったものの70%～71%、とギリギリのラインである。学生による授業評価においては知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは思考判断で学生が何を問われているのかを自覚していなかった可能性が考えられる。また到達度自己評価は平均値が3.21ほぼ中央値（3.0）だが、福祉学課の中での平均値3.7に比べると低い。次年度に向けて各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上における本科目の位置づけからみての内容妥当性 本科目は「必須科目である」68.4%、「資格取得に必要である」57.9%といったところからも学生が必須科目であるとしている。また、保育士という資格取得のための必要性として学生も受講していることから、位置づけ、動機づけのひとつとしている。こうした課題に応えるためにも受講内容を工夫し、学生も一定の成績を収めていることから内容的妥協性はあると思われる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥協性 成績評価（知的理解）から思考判断に関する達成度が比較的低かった。思考判断として何を問っているのか が学生に伝わらなかった可能性をしめしている点では方法的妥協性の問題である。これらに関しては見直しながら来年度の課題として挙げ内容を修正して行きたい。その他の領域に関しては70%台ではあるものの「やや達成された」とした領域である。理想的レベルまではあと一歩といったところであるとと思われることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、進め方等に、課題
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「期間中に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値が3.6と中央値（4.0）より低かった。学習範囲はシラバスではっきりとしていたのだが、「シラバスを参考にした」は45%と半数にも満たず、「シラバスに沿って授業を受ける計画を立てた」は15%とさらに少なかった。さらに、自発的学習に至っては9割の学生がしていないと答えている。その理由として他の教科が忙しかったからの意見。もっと関心度を上げていくことが求められていると感じた。また、テキスト外の事例を取りあげて検討する機会を作ったりもしたが、じっくり考えてもらう時間は十分に与えることができなかった。予習・復習の時間が想定よりすくなかったことも反省点である。次年度に向けては思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	基礎的知識の形成はテキストで概ね達成できたとしても、標準的なレベルを脱しえず、理想的なレベルまでには達しない。まずは授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを実施し、7～8コマ目には確認テストを行い学生への予復習への意識をたかめ学習状況を確認するようにする。またシラバスに沿ってテキストはテキストとして利用しながら、各回のテーマと具体的な実際の事例にあわせた情報についても提示し、図書館・インターネット等の利用をその都度促していきたい。また、実際の子どもたちの明るく元気に生活している姿などDVDで観たり、子どもたちの作文や詩を紹介する中で興味や関心をもって授業に参加できるように取り組みたい。昨年も同様のことで取り組んでは見たのだが、なかなか進まなかったことを反省し、さらに進めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育相談支援	4	前期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果から授業に対する関心の低さが示された通り、学生のモチベーションをいかに高めるかが課題であった。保育士が保育相談支援を行う意義と専門家として求められる思考判断や倫理について、学生が関心を示し、主体的に学びを深めていけるような様々な事例を用いたり、グループでのディスカッションを頻繁に取り入れるなどの工夫を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価、授業中のディスカッションでの発言、レポートの内容などから、DP2においてはおおむね達成されたと考えるが、多角的に事例の背景を捉え、分析判断するという点において不十分な点が残った。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」では比較的高い値が得られたが、学習量の評価、情報利用において具体的な成果があまり見られず、達成度についてはどちらともいえない状況である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士資格取得に必要な科目であり、これまでの保育専門科目での学びと相談援助関連科目での学びを統合させることで、知識の確認、修正を行い、課題の検討、的確な判断において知的好奇心を働かせることが必要であると考え。このような点において一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	個人やグループでの事例検討と意見の共有・ディスカッションを中心に授業をすすめたが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」に少数意見であるが「少しそうでないと思う」が見られることから、グループ内でのディスカッションの進め方、「お互いの意見を出し合い耳を傾ける」ことについても丁寧に取り上げながら授業をすすめていく必要があったのではないかと考える。来年度以降の課題としたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	この授業に限らず、学生の意見として「他の課題が忙しかったため」授業の課題以外に取り組んでいないという記述が目立つ。子ども家庭福祉コース全体で学生がこなさなければならない課題の状況や実習スケジュールなどを勘案し、自発的学習に取り組めるような環境を準備できるよう検討する必要があると考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術 I	1	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ピアノ奏法の学習準備性においては個人差があるため、あらかじめピアノ経験の有無やレベルについてのアンケートを実施し、一人ひとりのレベルに応じた適切な進行計画を学生と話し合いのうえで学生自身が立てることによって技術習得への意欲を高めるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、学生が授業時間外にピアノの自主練習を行ったことが記述されており、学生が技術習得に向けて主体的に取り組んだことが示された。また、音楽の基礎知識においても学習準備性においてばらつきがあり、必要に応じて個別指導を行うことによって全員が一定程度のレベルに到達することができた。前期試験の結果から、大半の学生は一定程度の技術レベルに到達することができたと判断された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考え。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行うことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP、行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が3.9とやや低い値であった。ピアノ奏法の評価基準について、より具体的に示し、学生の試験に向けた取り組みに役立つような内容となるよう工夫していきたい。一方で、音楽的基礎知識の獲得と学生が自ら音楽表現を楽しむことに重点をおいたことで、学習への意欲を向上させることができたと考える。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、学生の技術習得への意欲を高め、自発的練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の課題としたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅲ	2	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均86.8点(最高点100点、最低点65点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全項目3.5点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。演習の中でも特に保育の表現技術に関する実技系科目であることから、目標達成度は高いもの、学習時間や図書館等の利用は少ないことが窺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連DPについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3～4	三期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、7割以上の学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価として全体平均79.1点(最高点90点、最低点70点)であり、全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が3.5点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。保育実習後の施設からの評価、日誌をはじめとする書類においても成績評価が低い学生数名を除いて、良好であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習に行くために必要な知識・技術を身に付けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進捗した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて4名の教員で授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。しかし、基本的な文章能力といった点については、学生間の差が大きく、次年度以降は基礎学力差に対する対応についても検討の必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①学生の授業評価アンケート」（学科A Bの全体72名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが71名で98.6%であって、他の動機は「資格取得」が4.2%、「関心」が2.8%「単位数確保」が18.1%「GPAアップ」が2.8%、「友人が履修」が5.6%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「11,20,37」で93.15%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「3,1」で5.48%、無回答が「0」であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には福祉と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は78.53点であり、再試対象はなかった。分布的には、90点以上が13.33%、89～80点が33.33%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は46.66%であり、79～70点が52.00%、69～60点が14.67%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは66.67%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。②73名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「10,19,40」と「10,18,41」でいずれも94.45%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)いずれも「3,1」で5.48%であった。③専門分野での＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答は「4,14,45」と「3,11,50」で86.30%と87.67%であったのに対し、否定的回答は「9,1」と「8,1」で13.70%と12.33%となった。④専門分野でも＜意欲＞に関し肯定的回答は「3,11,50」で87.67%であり、否定的回答は「8,1」で12.33%であった。⑤さらに専門分野の＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「2,10,51」「4,10,46」で86.30%と82.19%であったのに対し、否定的回答は「8,2」と「12,1」で13.70%と17.81%であった。⑥学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「1,12,52」で89.01%であったのに対して否定的回答は「6,2」で10.96%であった。⑦＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「1,9,48」で79.45%であったのに対し、否定的回答は「10,5」で20.55%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、＜知識＞＜理解＞では5%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、＜検討する力＞＜判断する力＞ではそれぞれ13.70%と12.33%、＜意欲＞も12.33%であり、＜技術＞＜コミュニケーション、表現力＞習得では13.70%、12.33%であり、＜倫理・規範＞に関しては10.96%であった。②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための＜知識＞＜理解＞及び責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための＜倫理・規範＞、これらの分野では否定的回答が前者2つは5%台、そして残りが10%台であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる＜検討する力＞＜判断する力＞、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける＜意欲＞並びに、＜技術＞の習得という専門分野と、適切な関係を形成する＜コミュニケーション、表現力＞に関しての否定的回答はそれぞれ13%台、12%台、12%台であり13%前後であった。③以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野でも85%以上であり、授業内容は妥当であると考えられる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考えられる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生からの担当教員へ意見は3件あり、初めてキリスト教を学んだと思う学生からの「少し興味が出てきました」という感想があった反面、学生への指導の方法について「1人の分からない人に沢山時間をかけるのは止めてほしい。1回で分かる説明をして欲しい」という要望やテストの「範囲の説明と解説」が不十分という意見があった。できるだけその真意をくみ対応する工夫をする。学習量につき、7人が取組んだ学習内容を挙げ、13人の学生が取組まない理由につき、「何をすれば良いか取り組み方が分からない、することがない」(6)という学生が多く、「時間がなかった、課題で精一杯等」(4)、が続き、「やる気がなかった」(1)という学生もいた。第1回目授業から配布している「自己学習記録」に毎週の「復習の読書テキスト・予習の読書テキストとその時間」を記載する枠を設け奨励したが、学生の記憶に留まらない結果となり奨励が不十分であった。② 学習量の評価を見ると、<1回30分以上の予復習>6回を2人が実践し、1回以上は64.38%で6割強であった。③ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「13,17,37」で91,78%であった。<理解しやすい>という項目では、「3,16,39」で79.45%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「9,6」で20.55%と2割強であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「7,15,46」で93.15%あり、否定的回答は「4,1」で6.84%であった。<参加の機会>では肯定的回答が「5,11,44」と82.19%であり、否定的回答が「10,2」で16.44%であった。④ 今後、知識・理解をより得られるように説明の改善に向け、1)レジメの工夫、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、<6.授業の進め方とその向上について>の④に記載した改善策に取り組む工夫をする。確かに、再試受験の学生がいなかったが、しかし、テストの点が好ましくなく、テスト以外の点との総合点で何とか及第点に達した学生も若干いた。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の歴史と文化	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を挙げたものが83.3%、「関心のある内容である」を挙げたものが33.3%であった。必ずしもすべての者に積極的な受講姿勢を期待できる状況ではなかったが、高校世界史の履修を前提に、ヨーロッパ世界の過去と現在のつながりを絶えず具体的に指摘しながら、授業に関心が持てるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、秀、優、良、可に分散した。到達度自己評価と授業の質評価は、全ての項目で、平均値が中央値前後であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1、DP4に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価と授業の質評価に関する上記の結果から、十分とは言えないが、一応、内容的妥当性があったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、教科書を使い、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に当たっては、最新の新聞記事も使い、歴史と現在の関連が捉えられるように心がけた。講義を踏まえて、ヨーロッパ世界とビザンツ世界との構造比較に関して、またキーワードの説明に関してレポートを課したことは、受講者の理解を深める上で有益であった。予習・復習に関しては、学生任せにしたきらいがあり、30分以上の予習・復習をした回数が2、3回にとどまる者が多く、教員には課題を具体的に与える姿勢が求められた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	高校までの世界史の履修を前提に、講義を通してヨーロッパ史について新しい知見を与えることは出来たが、アクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合人間学概論	1	前期	必修	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学の教育目的を実現するための一年前期の必修科目である。授業はオムニバス形式で行われ、授業回数は8回であった。第1回～第3回では、建学の精神、学科の教育目的と課題、キリスト教に基づく女性の生き方について、それぞれ学長、学科長、宗教主事が講義を行った。第4回と5回では女性として、生涯を身体的、精神的に健康に過ごすために必要なことについて専門家が講義した。第6回～8回ではキャリア形成について、国際的な視野、男女共同参画、学科のキャリアモデルという側面から、それぞれの専門家が講義を行った。 受講動機としては、すべての学生が「必修科目である」と答えており、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と答えた学生は1.7%しかいなかった。 担当した第2回の授業では、福祉学科の教育目的や福祉を学ぶことの意義について、具体的な事例を挙げながら講義した。授業の最後に、感想を書いてもらったが、それらを見るかぎり福祉を学ぶことに対する動機づけはある程度できたと考える。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.5(±6.3)点であり、再試対象者はいなかった。成績分布別にみると、90点以上が16%、89～80点が60%、79～70点が23%、69～60点が23%、60点未満が1%であった。すべての学生が標準的レベルに達しており、そのうち76%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、平均値が3.0であり、87%の学生は肯定的に捉えていた。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価 (質問項目2と3)についても、平均値は3.3、3.2であり、95%の学生が肯定的に捉えていた。 「態度 (DP4)」に関する学生の到達度自己評価 (質問項目9)についても、平均値が3.3であり、ほぼすべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「総合人間科学（心身と健康）科目」であり、本学の教育目的を実現するための必修科目である。成績評価や到達度自己評価からみて一定の成果を収めており、内容的には妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価については、「説明は理解しやすいものであった」（平均値が3.1）を除いて、その他の項目は平均値が2.5～2.6であり、34～40%の学生が「すこしそうでないと思う」あるいは「全くそうでないと思う」と答えていた。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ84%、71%もあり、また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も約84%と非常に多かった。 また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしていいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生が建学の精神に触れると同時に、専門科目ではきくことのできない幅広い内容について学ぶことで、「専攻する学問分野の違いを超えて学習する上での根幹となる総合的視点と豊かな人間性を育てるための教養教育」という総合人間科学の目的は達成されていると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1	前期	選択	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	1	前期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると、「必修科目である」、「資格取得に必要なである」と答えた学生は、それぞれ23.9%、19.6%であった。これは、本科目が保育士資格の取得を目指す学生にとってのみ必修であることを反映した結果であろう。「関心のある内容である」と答えた学生は39.1%であり、学生の興味・関心をさらに引きつけられるように、健康に関する身近な事例をできる限り多く挙げるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は70.6(±14.3)点であり、再試対象者は6名であった。成績分布別にみると、90点以上が4%、89～80点が23%、79～70点が28%、69～60点が36%であった。91%の学生が標準的レベルに達しており、27%の学生は理想的レベルに達していた。一方、標準レベルに達していなかった学生は4名であり、うち1人は再試験を受験しなかった。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が4%、「わりにそうだと思う」が26%、「まあまあそうだと思う」が67%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた(平均値3.3)。 「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が7～20%、「わりにそうだと思う」が37～39%、「まあまあそうだと思う」が41～54%と、ほぼすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.5～3.8)。 「思考・判断 (DP2)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目4と5)についても、「かなりそうだと思う」が7～9%、「わりにそうだと思う」が28～37%、「まあまあそうだと思う」が52～61%と、ほとんどすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.4～3.6)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる科目である。授業では主に定期的な運動がどのようにして生活習慣病を予防し、体力を向上させるか、さらには運動の効果をより大きくするために、どのように運動を計画していくのかなどについて解説を行った。「知識・理解 (DP1)」、「思考・判断 (DP2)」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生(98%)が肯定的な回答を行っていた。 学生の自由意見としては、「わかりやすかった」や「色々なことを知れて良かった」などがあり、健康を維持・増進させることについての興味や関心を高めることのできた学生が数人いた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学生の自由意見として、「少し難しい内容でした」というものがあったが、学生には少し難しい内容であってもなんとか理解しようとする姿勢をもってもらいたい。 学習量の評価についてみると、今年度は1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていなかった学生が約30～33%であり、また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は約72%もいた。このことは昨年度から学生の学習意欲や興味関心の幅を広げることができていなかったことを示しており、今後工夫が必要である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。 また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 チームスポーツでは、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点（課題）などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.8（±7.2）点であった。成績分布別にみると、90点以上が33%、89～80点が51%、79～70点が14%、69～60点が1%、60点未満が1%であった。ほぼすべての学生が標準的レベルに達しており、約84%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が6%、「わりにそうだと思う」が48%、「まあまあそうだと思う」が45%とほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が7～21%、「わりにそうだと思う」が19～43%、「まあまあそうだと思う」が34～66%と、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.3～3.8）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ3.3～3.4、3.3、3.2～3.6、3.4であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は総合人間科学の「心身と健康」領域に含まれる1年生対象の科目である。授業では体力向上を目指した運動（ストレッチング、筋力づくり運動およびスタミナづくり運動）の実施方法を実技を交えて解説した。また、チームスポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル）の技術練習およびゲームを行った。特にチームスポーツでは、授業の最後にゲーム中の良かった点や悪かった点など振り返り行わせ、次に向けてのチームの課題について話し合わせた。その結果、回を追う毎にゲーム中の声掛けが良く行われるようになり、より積極的なプレーが観察されるようになったように思える。このようなことから、本科目は内容的に妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.4～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、各種トレーニングおよび球技スポーツを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、球技スポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で体操やストレッチ、ランニングをしていた者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	河岸 重則

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講生は高校時代に「化学」を履修した人が少なく、また「化学」に苦手意識を持っている人が多い。加えて、ほとんどの受講生が「単位確保」を目的としての履修のため、授業内容を易しくて、日常意識していないが注意してみると「化学」が生活の中にたくさん存在していることを理解し関心をもってもらうことを目的とした。 ②上記の目的のため講義内容をその時間内に理解することに重点をおいているので特に「予習・復習」を求めているはない。講義の開始には前回の内容の「キーワード」の復習から行なった。 ③数回、確認テストを行い、理解度のチェックを行なった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①試験を資料持込で行い、その資料を理解しているなら点数のとれる形式で行なった。平均点は80点であった。 ②身の廻りの化学から受講生のおのおのが自分でレポートの課題を決定して提出させたが、全員きちんと仕上げていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教養科目」であり、また選択科目、学科横断的科目である。試験の点数、レポート内容から、内容的に妥当であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業で一応確認しながら授業を進めているが、授業評価で、もう少しゆっくり進めて欲しいとの意見があり、授業中にもう少しこまめに確認していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

一般教養としての化学の内容として特に問題はないと考える。化学は範囲が広いので、学生に意見を聞いて学生がさらに関心を持つような講義項目を加えたいと思っているが、残念ながら提案が無い。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者の受講動機が”単位数を確保するため”で”関心がある”とする学生が少ない傾向にある。そのため、まず、受講生に本科目への関心をもってもらうため、一般教養科目としての位置づけを明確に説明した。また、科目概要に加え、学科のAP、CP、DPについてパワーポイントおよび印刷物を使い詳細に説明した。 ②レポート課題は、評価項目と点数配分を明確に示すと同時に、評価が低いレポートの例、評価が高いレポートの例をだし、レポートの記載方法についても詳細に説明した。また、レポート返却時には、レポートの振り返りをうながすために、レポートの講評をおこない、個別に点数を開示した。 ③昨年の課題としてあげた学習時間の確保については、まず、レポート作成に複数の文献を使用することを評価項目にあげ、図書館スタッフの協力を仰ぎ、図書・文献検索、インターネット活用を積極的にするよう促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は63点であり、75%の受講生が標準的レベル(60%以上)に達し、理想的レベル(80%以上)に達していたのは全体の13%であった。2名が再試験対象者となった。 ②知識理解の達成度は63%、”学生の知識理解の到達度自己評価”の平均値は3.3、”知識を確認、修正、新たに得ることができた”については3.4であった。昨年より評価は低かった。意欲関心についての到達度は100%で、”事象(自然・人・社会)を理解する視点や考え方を得ることができた”3.6、”専門領域への学びを深める意欲をもった”が3.3であった。 ③授業の質評価は、”課題レポートの評価基準の明確さ3.6”、”自分の意見をまとめる・話し合う・発表する”という授業スタイルの評価は3.8と今年度の学生の自己評価のなかでは評価が高い項目であった。”コミュニケーション力や表現力を高めることができた”という学生の到達度自己評価3.5からもグループ討議は、意欲関心および思考させる意味では講義手法として効果的と思われる。 ④学習時間について は、1回30分の予復習をした学生が全体の56%、全くしなかった学生が37%と学習量が少ないことがわかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 この科目は一般教養科目であり選択科目である。学生に一般教養の知識と事象(自然・人・社会)に対する興味関心をもち専門領域につなぐ位置づけとしては、学生が一定の成績をおさめていることから内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解については、75%が標準レベル以上の成績をおさめている。また、日常生活と環境の関わりに対する関心意欲は理想的レベルに達しており内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生には、図書館利用について、シラバスに記載し講義でもかなり指導したが、図書・インターネットを利用した学生は50%と昨年（80%）に比較し、 利用率がかなり低かった。また、予復習を1回もしてない学生が37%もあり課題が残った。次年度は、講義をとおり、レポート作成による主体的学習の 取り組み、図書館と連携し図書館利用率をアップする取り組みを行なっていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養・基礎知識を培うという目標は達成できた。しかし、上記に記載したように、学習時間、図 書館の活用は低く、課題が残った。例年、福祉学科は2年生の受講生が主であるが、今年度は受講生の88%が3年生であった。講義と学外実習が重なり 十分な学習環境が与えられなかったのも影響したのではないかと。講義をとおり学生の学習量を増やす工夫をするとともに、学習環境・学習時間の確保 については学科とともに改善策を考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	東野 充成

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代社会と統計	1	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施に当たっては、統計学の基礎的な概念と計算方法を修得できることを目標とした。とりわけ、医療や福祉の領域で多用される統計分析の使い方と読み方を修得できることを重点に置いた。これらの目標を達成するためには、受講者が開講時点でどの程度の高校数学の素養を有しているのかを認識しておくことが必要であり、開講初日に高校数学で習った範囲のアンケートを取り、また簡単な計算問題を実施した（確率、積分、指数対数など）。その結果、受講者の間で既習範囲がまちまちであり、また既習範囲でも正解できない学生がいたため、できるだけ数式は使わずに説明する方法を実践した。また、計算が必要な箇所も、エクセルを活用して計算できるよう指導した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	レポートを評価した結果、2回のレポートを通して、ほとんどの学生が、エクセルを用いて、相関係数及び回帰分析の計算をできるようになっていた。当該レポートでは、計算結果の意味を文章で表現することも課していたが、叙述や表現において拙さはあるものの、計算結果の意味を根本的に取り違えているという学生はほとんどいなかった。その結果、成績の平均点は80.8点、学生のほとんどが秀・優・良と評価されており、一定程度目標は達成されたものとする。また、レポート作成に当たりインターネットを利用したものが半数を超えており、授業の質的評価も総じて高かった。ただし、レポートの1回目の提出では、計算結果が統計の原則と整合性が取れていない学生や数値の意味を読み違えている学生も数名おり、こうした点で、上記表目標を十分に達成できていない学生もいると考えられることから、「やや達成された」という結果とした。意欲関心については、福祉を学ぶ、学びたい学生にとっては、そもそも興味・関心の薄い領域であり、かつ必修や資格系の科目ではないため、どちらともいえないと評価した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は福祉学科の学生にとっては教養の選択科目に位置づけられ、受講へのインセンティブは必ずしも高くない。実際、受講動機において、ほとんどの学生が「単位数を確保するため」と回答している。しかしながら、統計の基礎的な概念は福祉や教育の領域においても多用され、エビデンスに基づく福祉・教育など統計の必要性は日増しに高まりつつある。また、現代社会を理解する上で必須の素養のひとつである。本講義の前半部分では主に統計の基礎概念についての講義を、後半部分では特に医療・福祉・教育などの領域における現代日本の状況を数値で確認するという講義を行ったが、これは上述のような本科目の位置づけを鑑みてのことである。その結果、学生にとっては必ずしも受講動機が高くない科目ではあるが、学習到達度の自己評価や授業の質評価では、比較的高い値を記録しており、内容の妥当性は確保されていると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	できるだけ数式は用いないで統計の基礎概念や数値の意味を理解できるよう工夫はしているが、基礎的な演算に関しても課題を抱える学生が少数ながら見られる。これまでは高校数学のⅠA及びⅡBレベルを修得していると想定して授業を組み立てていたが、開講時に簡単なブレイズメントテストを行うなど、基礎的な数学力の確認を行うことが必要となりそう。また、エクセル等の表計算ソフトの使い方については、別の授業で学習しているものと想定していたが、受講者によってはまったく学習していない学生もいた。そのため、表計算ソフトの使い方と、それをを用いた簡単な演算方法等についても享受する必要があると考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉や教育を学修する学生にとって必ずしも興味・関心の高い分野ではないという点にかんがみるなら、ある程度教育目標は達成できたと考えている。学生が提出したレポートを読む限り、相関係数や回帰分析など、統計学の基礎的な概念や演算について、一定程度達成しているものと考えられる。ただし、講義の前半部分はどうしても基礎概念や演算方法を教える授業が中心となり、現代社会を見る視点が手薄になりがちである。また、福祉・教育分野での統計学の利用実態や統計の利用法なども、詳しく教授できていない。今後は、福祉や教育を学ぶ学生の興味・関心をより高めるため、医療統計の紹介や、医学における統計の利用実態・利用方法を紹介する講義内容も組み込みたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	宮川 幹平

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報リテラシー	1	前期	選択	いいえ	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	(1) PCをはじめとした現代のICT環境を、自らの学修や生活、将来の業務にどう活かすかについて、体験的かつ発展的に学べる授業とすることが大きな目標であった。特に、学科の主軸となる資格試験と直接の関連がないことから、ICTスキルに自信がない学生が受講生の大半を占めると想定して、基本的なスキルに関する実習を授業の中心に据えながら、高校における教科「情報」の焼き直しにならないよう、最新のICT事情に関する講義や応用スキルの実践を適宜授業計画に組み込んだ。 (2) レポートやプレゼンテーションのテーマとして最新ICT事情を取り上げ、それらに関する学生の興味関心を喚起することを目指した。特にプレゼンテーション実習については、グループワークとピア評価活動を組み込むことで、主体的な行動を促すとともに、ICT活用の可能性について気づきを得ることを狙った。 (3) 毎回の授業終了時に、独自の授業評価と振り返りを実施（所属校のシステム利用）し、次の授業展開に活かすようにした。特に個別の質問についてはではできる限り回答するようにしている。 (4) 実際の「受講動機」は④「単位数を確保する」が75.7%と群を抜いており、⑥「友人が履修している」24.3%が次点と、事前想定よりもさらに消極的な受講選択とみなせる。来年度も同程度と考え、授業の最初期にどれだけ学習への意欲付けを行うかが肝要となるだろう。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	(1) 成績分布はS 26.8%、A 26.8%、B 41.5%、C 4.9%であり、不合格者はいない。受講者の95.1%が標準的達成目標(B)に到達し、さらに過半数となる53.7%が理想的なレベルに近い域(A)まで到達している状況から、全体的に見て、学生の目標到達状況は良好と考えている。 (2) 知識理解の観点について、4つの課題の平均評点(最大5点)はそれぞれ3.63、3.77、4.62、3.30。標準的な達成目標である2.5未満の評点となった課題(未提出を含む)は全体の4.3%である。特にExcelによる情報分析課題については全体の67.4%が理想的なレベルに対応する評点(4.5以上)を得ている。以上から、知識理解の学習目標は達成されたと判断した。 (3) 意欲関心の観点について、毎回の授業における作業ファイル等は出席者全員が提出しているほか、その内容に明らかな不足はない。振り返りの実施率も92.0%と高い。しかしながら、特にICTの最新事情に関する調査や発表について、全般的に「調べ学習」に終始し、レポートに本来必要である自分の意見、特に自分の専門分野や生活との関わりについて述べることができていなかった。このことは、Excel情報分析課題を除く3つの課題での理想的レベルへの到達率(それぞれ54.3%、47.4%、31.6%)の伸び悩みとして表れている。その背景にスタディスキルに関する理解もあるだろうが、本授業の目標の一つであるICTに関する興味関心を喚起するという点では、まだ改善の余地があると考え。 (4) 授業評価による自己評価について、目標達成に関する質問回答結果と実際の成績分布と比較するとやや厳しいようだが、大きな相違はない(④「わりとそうだと思う」⑤「かなりそうだと思う」をあわせて56.4%、③「まあまあそうだと思う」までいれると94.9%)。また、知識を得ることができたかに関する質問の回答平均は4.5と高く、知識理解の修得を学生に実感させられたことを示唆している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	(1) 本科目は1年次前期に開講され、今後の大学での学修の基礎能力となるICTリテラシーを育むものである。昨今のICT技術の進展と応用を考えたとき、所謂「ワープロ・表計算」の操作方法だけに特化するのではなく、現在のICTの現状や未来へのアンテナを張り、大学や職場・家庭等におけるICT環境をより自由な発想のもとで活かす意識を涵養することは、ICT技術の専門家を目指す学生ではないからこそ、さらに重要になると考える。以上の観点から、本科目の内容は妥当と判断した。 (2) 前述の通り、授業評価の結果からは、学生の積極的な受講動機を見出すことは難しい。また、「情報科学演習I」とあわせて受講している学生は、本科目受講者の95.1%を占めているが、その位置付けの違いをよく理解していない様子や、それぞれの課題内容やテスト範囲等を混同するような様子が見られたことから、両科目の違いを明確化・整理する必要性を感じている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	(1) 授業評価における「授業の質評価」について、各項目とも平均4.0を超えており、概ね良好な評価を得たと考えている。特に、学生からの質問を受け付けているかについての評価は平均4.5と高く、これは、毎回の授業評価に記載された質問にすべて回答（独自の授業資料サイトにも掲載）したことや、比較的多めにとった実習時間中の机間巡視対応が評価されたものと判断している。その他、学習範囲や課題内容に関する明確性の高評価は毎回の配布プリントが功を奏したと考える。 (2) 授業評価の自由記述には、課題・レポートが多いとの記述が多く、タイピング練習を除いては自己学習を喚起できなかった様子が伺える。このことについては、単純に課題を減らすのではなく、その内容やタイミングを調整することで対処したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	まず、授業全体の品質について、概ねその基準をクリアしたものと考えているが、学生のICTに関する興味関心を喚起する方策については、さらなる工夫が必要とみている。今後は、情報科学演習Iとの差別化を一層進め、より自由な発想から、ICTに関与する姿勢を涵養し、評価することを目指したいと思っている。特に、グループワーク（ペアワーク）については、プレゼンテーション活動に限らず適用する場面があると考えており、具体的な検討を進めていきたい。 その他、細かいこととしては、大学のICT環境について、講師自身が不慣れな点もあったこと（教員が用意した学習コンテンツを利用できないというシーンが一部あった）は反省点である。可能な限り、事前確認を徹底していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	宮川 幹平

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	(1) デジタル文書・資料の作成スキル向上と、情報倫理・セキュリティ面での知識獲得を目指し、実習と課題、講義と小テストをバランスよく配置することを心がけた。特に講義については毎回20分程度として、実習を志向する学生の集中を切らさないよう配慮を行ったほか、小テスト実施後にすぐさま簡易な解説を組み込むことで、知識の定着を図った。 (2) スキル面では個人の前提スキルに大きな差があることが想定されるため、基本的な内容（＝標準的な達成目標に相当）についてはより具体的に操作等を指導するほか、応用問題・実践問題を数多く提示して、その意欲に応えるようにした。 (3) 毎回の授業終了時に、独自の授業評価と振り返りを実施（所属校のシステム利用）し、次の授業展開に活かすようにした。特に個別の質問についてはできる限り回答するようにしている。 (4) 実際の「受講動機」は、④「単位数を確保する」51.5%、①「必須科目である」43.9%、②「資格取得に必要である」40.9%が主体であり、本学科の教育目標を鑑みて、本科目が取り扱う内容の必要性については学生も十分理解していると判断できる。実習内容と本学科の専門的な教育内容とのリンクをさらに推し進められれば、学生の受講姿勢もさらに改善するのではないだろうか。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	(1) 成績分布はS 18.8%、A 26.1%、B 42.0%、C 11.6%（出席停止による再試1名の結果を含む）、不合格者は1名であった。受講者の87.0%が標準的達成目標（B）に到達してはいるものの、理想的なレベル（S）に到達できた学生は2割を切っており、1割以上の学生が基準を達成できなかったことや、後述する演習の成績状況から、全体の目標達成については改善の余地ありと判断した。 (2) 知識理解の観点について、3つの課題の平均評点（最大5点）はそれぞれ3.83、3.92、4.47。標準的な達成目標である2.5未満の評点となった課題（未提出を含む）は全体の2.9%である。特にPowerPointによるプレゼン資料作成については全体の85.5%が理想的なレベルに対応する評点（4.5以上）を得ている。一方、授業時間中に実施した演習（まとめ）の結果を見ると、その平均評点（最大5点）は3.30、特に理想的レベルに到達できた学生は4割を切っており、受講生全体に目標とするスキルが真に定着したとは言い難い状況である。また、講義内容に対する小テストの結果（平均）は、それぞれ8.89、7.90、7.86、6.84と、回を追うごとに点数が低下してしまった。内容としてはそれぞれ独立しており、難易度を順次高くしたわけではないことから、その原因については測りかねている。 (3) 意欲関心の観点について、毎回の授業における作業ファイルの提出は出席者全員が行っているほか、振り返りの実施率は平均89.9%、課題の提出率も全体で97.1%と高く、授業で求めた学習意欲については十分な基準に到達したと判断している。 (4) 授業評価による自己評価について、目標達成に関する質問回答結果と実際の成績分布と比較すると甘いように思える（④「わりとそうだと思う」⑤「かなりそうだと思う」をあわせて56.4%、③「まあまあそうだと思う」までいれると92.5%）。知識獲得についても高い自己評価であるが、学生の満足感とは別に、実際に授業で求めているレベルをしっかりと周知し、その定着に向けたこまめな努力を明確に課す必要性が伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	(1) 本科目は1年次前期に開講されるが、その内容は大学での学修だけでなく、就職後の業務においてもその基本となるものであることから、カリキュラム上の位置付けには十分な妥当性があると考え。特に、同時期に開講された他の専門入門科目において、Wordによるレポート作成やExcelによる情報分析課題が実際に課されているようであること（学生からの伝聞）から、本科目により、ICT活用の基本スキルを早期に学習することの価値は非常に高いだろう。 (2) ただし、「情報リテラシー」との差別化・役割分担については検討を要する。実際、学生に両科目の位置付けの違いをよく理解していない様子や、それぞれの課題内容やテスト範囲等を混同するような様子が見られたことから、両科目の違いを明確化・整理する必要性を感じている。資格認定上で本科目内で実施することが求められていることの確認が必要であるが、一部講義内容を情報リテラシーに移すことも一考ではないだろうか。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	(1) 授業評価における「授業の質評価」について、評価基準・学習範囲や課題の明確性については平均4.0以上の良好な評価を得ているが、説明の理解しやすさという点では平均3.6とやや留意すべき状況にある。また、質問に答えているかどうか（平均3.8）についても、毎回の授業評価に記載された質問にすべて回答（独自の授業資料サイトにも掲載）していたとはいえ、学生のスキル差を吸収できるほど、個別にケアできなかった（ケアしきれなかった学生層が存在する）ことを示唆している。 (2) 授業評価の自由記述には、課題・レポートが多く、難しいとの記述が目立つ。課題の中に任意の応用課題（オプション）を組み込んでいたのだが、説明がうまく伝わらなかったのか、その量に圧倒させてしまったのかもしれない。このことについては、評価方法の明示や配布資料の表現を調整することで対処したい。 (3) 実習に関して、できる限りの机間巡視で個別対応を行うという方針であったが、現状では、学生に十分な満足を与えられておらず、スキルの定着も不十分であったと判断している。ある程度自己学習ができる学生へはテキスト（教科書）を活用することで、個別にケアすべき学生への対応力を強化していくことを考えている。 (4) 講義内容の理解が不十分であることについては、実習室での講義においていかに講師の説明に集中させるか、その手腕が問われるものと考えている。今後、単に聞くだけにならないよう、レスポンスアナライザやペアワークを組み込むといった改善策を模索していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業全体の品質については、概ねその基準をクリアしたものと考えているが、WordやExcelの基本スキル定着については改善の余地があると見ている。多人数の実習授業において、個別に対処しきれないケースは生じうるが、授業終了後の振り返りによる質問・回答は今後も積極的に活用し、学生の声にうまく応えていきたい。また、今回はテキストを指定せず、参考図書扱いとしたが、来年度はテキスト指定も排除せず、学生にとって復習しやすい環境を整えることが重要であろう。学生からは「課題に追われた」という声が多いが、スキル定着のために必要であることを周知しながら、一步一步確実に修得させるよう、課題の構成を再調整したい。そのほか、前述した通り、実習室での講義において、学生の集中をいかに切らさないか、講義の進行にさらなる工夫が必要と考えている。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方では終わるのではなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。 知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。 技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。 受講生の受講動機の6割が、「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「必修科目である」「単位数確保」が主要な動機である。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は90.23点で、標準偏差は8.49であった。 受講者の半数以上が90点以上であったことから、教育目標は達成されたといえる。 単なるPowerpointやExcelの使い方にとどまらず、Webページの構成法やProcessingプログラミングなど、抽象度が高く、高度な内容を含んでいることから、到達度自己評価はすこし低めになっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。 アニメーションやインタラクティブな表現については、学生にとっては面白く興味深い反面、自在に操るためには高度な知識が必要となることから、発展的な内容として扱うほうがよいとも感じている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	アニメーションやインタラクティブな表現について、今年は具体的な動作サンプルを提供し、それを選ぶことで、作品をつくりやすくする効果は提供できたと考えているが、今後は発展的内容として紹介するにとどめることも検討している。 ほかの講義の演習に時間がとられるようで、学生の自主的な予復習を期待しつつも、現実的には難しい現状があると理解した。学生の負荷を他講義と共有できるのが望ましいが、困難な場合は締め切りを柔軟にするなどして、ほかの講義や演習負担との重複を緩和するようにしたい。 講義資料については、Web上で配布しているが、重要なものは印刷して配布するようにしたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	* 総括的評価 * 新しい知識を提供することは成功しているが、職業・専門分野との関連や、意義づけについて、改善する必要がある。 * 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーに、大きなばらつきがある。タイピングスピードが遅い学生は、操作が遅れがちになるため、説明においていけない。とくにスキルやリテラシーのひくい学生に対して、上記で述べた学習の動機付けを改善することが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学概論	1	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」66.7%、「単位数を確保する」33.3%、「関心のある内容である」33.3%であった。シラバス・イントロダクションにおいて、権利擁護論および司法福祉論で扱う講義内容の基礎となる旨を述べていることが、ある程度影響していると思われる。ただ、保健福祉学部3学科（2016年度は栄養学科の履修者がいなかったため、2学科）同時開講の科目のため、福祉に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	前期試験の平均点は73.25点で、再試対象者はいなかった。また、理想的レベル（80点以上）に達した者は5名であった。前期試験は、知識理解を文章で論述してもらう問題形式であったが、履修者は昨年度より大幅に少ないものの、学生の意識が高かったせいか、講義内容をある程度以上理解し、筋道通った文章で解答している答案も見られた。知識理解を文章で論述してもらう問題形式であったが、筋道通った文章で解答している答案がいくつか見られた。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均は4.0、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均は3.6、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均は3.6であった。なお、DPには含まれていないが、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均はともに3.7、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均は3.6であったことから、法学の知識が福祉の現場における問題解決に有用であることを学生がある程度理解できているのではないかと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないが、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」「司法福祉論」で学ぶ内容の基礎となる。また、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、人々を総合的に理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.9であり、レジュメ作成等の努力がある程度報われていると思われる。他方、「学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.2とやや低い。これについては、講義の性質上、学生の参加の機会を設けるのは困難であると考えている。なお、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均は3.4であった。今後は教員の業務の負担にならない程度で、学生の質問を促す方策を考えたい。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「復習と予習」「ニュースをよく見るようにした」「プリントを見返す程度」などを行っている学生がいる一方で、授業以外に学習していない理由として「何をしていいかわからなかった」「時間がなかった」という意見が見られた。ただ、予習・復習を全く行っていない学生の割合は昨年度より減少している。学生の意見については、「難しかった」との意見がある一方で「高校の時に少し法律はやっていましたが、さらに知識を深めることが出来たので良かったと思いました」との意見があった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、人間を総合的に理解するための基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣の定着と、学生からの質問を促す方策を検討したいと考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代と教育	2	前期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	単位取得目的の者が半数以上、興味を持っている者が3分の1程度であった。 テーマが遊び文化に関連しているため、その半数強が内容にも興味を持っていた。教養科目であるため特定の資格取得に向けた知識技術の習得を目的としていないので、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は69.3点であり、合格率は82.6%であった。基本的に知識理解が達成目標となっているが、平均点が70点程度を期待していたがおおよそ達成された。 合格者のうち、秀に相当する者は2名、優は1名であった(23名中)。合格者の知識理解のレベルとしては良が多い。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の理解が不十分であった理由はいくつか考えられる。ひとつは歴史的な事象に関する基礎的知識の不足である。江戸時代の遊びについて解説するために、江戸時代とはどのような時代であったのかということから始めなければならない、本来の授業内容を圧迫する原因となるだけでなく、学生の理解の焦点がぼやけてしまう結果にもつながっている。 もうひとつの理由に、具体的イメージができていく学習内容についての理解が不十分であることが挙げられる。 これらの問題への改善方策として以下の2点が考えられる。（１）江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。（２）画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体の平均点を上昇させることと、秀と優の学生割合を増やすことが今後の課題である。そのためには学習内容への興味関心の深まりが不可欠であり、授業内容が面白いと感ずることができるものへと改善する必要がある。また、どのような形で知識の定着を確認するのかという点についても、授業を通じて学生に理解させ、アウトプットと結びつけたインプットができるよう指導したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人権と社会	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①人権について、高校までの学習では「人権は大切だ」「差別はいけない」ということさえ書いておけばなんとかなるというふうに教えられてきていることが多いので、まずはそうした学びの姿勢を覆すことを第一にした。 ②また、学生は講義中は板書を写すことに専念して講義を聴いてノートをとるという習慣がないので、板書する分はあらかじめレジュメとして配り、新たな知見はそれに書き込んでもらうように指示した。 ③それらを強いるために毎回内容に対して学生自身の思考を問う課題を提示し、それを提出させるようにした。 ④また、途中二回中間テストを行い、かつこれを各自相談の上で解答させるということによって協同学習及び学習知の深化をはかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①6名の受講生のうち秀が4名、優が1名であり、非常に高い評価を与えることができた。受講動機は60%が「単位数確保」であったが、33.3%が内容に関心を持っており、おそらくこれらの学生の影響が学修意欲に結びついたのであろう。 ②随時ディスカッションを取り入れたが、議論は活発であった。 ③担当教員への意見として「授業が楽しかった」「わかりやすかった」「初めて知った知識が多かった」というものが出てきており、興味を喚起したこと、「この授業を受けなかったら人権についてこんなに考えることは無かった」といい自由記述は大学の講義としての一定の役割を果たしたのではないと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学科目であるが、福祉という専門性深く関わる内容であるせいか興味を喚起したと思われる。福祉領域に幅広い知見を与える上でも意義があった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生の参加する機会が作られていた」が4.8、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が4.4ポイントであり、双方向性、参加型の授業となっていたことが有効であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

福祉学科の専門科目と並行して学んでいるので、専門科目とある程度結びつけて考える思考ができてきていると思われる。また互いに教え合ったりする形式は学習意欲を喚起するようなので続けていきたい。また、講義の密度にばらつきがあったり、新しい課題も出てきているので、シラバスの改善を計りたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	薬師寺 元子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語 I	1	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	『受講動機』は、必修科目ですので、少数の学生を除いて、ほぼ全員真剣に取り組んだと判断致します。しかし、昨年同様、専門科目である福祉関係の科目の準備が忙しすぎて英語まで手が回らないと言う自由記述が多々見られました。「授業の範囲だけで精一杯」、「他の課題があって取り組みなかつた」、「何をしようか分からなかつた」等がありました。授業の実施にあたり大切にしていることは、積極的、且つ、能動的な学習態度を軸と致しました。①まず出席とレポートの提出が肝要であると強調致しました。②次に予習、復習に重点を置くように勧めました。③さらに、予習復習を徹底するためにノートを作り、その使い方を詳細に説明致しました。まず英文をノートに写し、和訳をし、新出単語を調べてくる。これは、一部の学生を除いて、約8割が実行致しました。『授業以外に具体的に取り組んだ学習』の自由記述に、「内容理解の為に努めた」、「ノートをまとめた」、「単語の勉強を頑張った」、「解らないところを復習した」、「予習、復習をした」、「英検準2級を受けた」とありました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①本科目では、全員が、標準的レベルに達し、最終的な成績の平均値は100点満点中の79.1点であり、再試対象者は0名でした。80点以上で、理想的なレベルに達したのは、76人名中47名でした。考査の難易度は、標準的なものを作成致しました。『学生の到達度自己評価』につきましては、概ね肯定的な解答で、(1)自分なりの目標を達成した(95.7%)。(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た(98.6%)。(3)事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た(95.7%)。(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た(約90%)。(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た(87.1%)。(9)職業倫理や行動規約(守るべきルールなどについて)学ぶことが出来た(92.9%)。と非常に割合が高い結果になっておりますが、(10)職業選択の参考になった、という点に関しましては、2名が「全くそうでないと思う」、21名が「少しそうでないと思う」と否定的な解答が約33%もいました。肯定的な解答が67.1%ですので、相対的に言えばやや達成された結果となっております。自由記述につきましては、「進むのが早い」、「訳が早すぎて追いつけないことがあった」、「新聞記事で難しいものもあったけど、新たなことが学べて楽しかった」と様々ありますが、全員が納得し、満足してもらうように、もう少し授業の速度を落とし、ビジュアル資料などを織り交ぜ、理解を深めるように、検討及び努力したいと思います。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①＜CPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価＞ 本科目は福祉学科の必修科目であります。昨今、グローバル化が進み、英語の発話力が問われてきました。しかしコンピューター時代に突入したため、それ以上に、正確な英語の読解力が求められます。精読により、語彙力、文法力を徹底的に修得することが肝要でありますので、中心的必修科目の位置にあるといえます。学生の本科目に対する到達度自己評価に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」、「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」、「職業倫理や行動規約(守るべきルールなどについて)学ぶことが出来た」等に関するものが、9割以上を占めていますので、本科目の内容的妥当性は確実であると考えます。 ②＜DP、行動目標から見たの内容的妥当性＞ 学生が達せきすべき行動目標は、「食育と健康のみならず、医療にも関心を持つことが出来る」、「食育、健康、医療というものを、英語を通して、グローバルな視点から捉えることが出来る」、「食育、健康、医療に関する情報を通じて、社会人として基礎的な教養を身に付ける」と挙げられております。この項目につきましては、教科書、『今を生きる心とからだ』により、知識を広めながら、英文を確実に精読し、内容を理解致しました。これにより、「食育、健康、医療というものを、英語を通して、グローバルな視点から捉えることが出来る」、「食育、健康、医療に関する情報を通じて、社会人として基礎的な教養を身に付ける」という行動目標は達成でき、本科目は適切であると考慮致します。 ③＜まとめ＞ 以上から、内容妥当性には全く問題はないと判断致します。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	<授業の質評価>につきまして、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」では、「まあまあ思う」と「わりに思う」と「かなり思う」を合わせると、９０％でした。「期間内に行うべき課題は明らかであった」も同じく、９０％であった。「説明は理解しやすいものであった」では、８７．１％であった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」では、９４．３％であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、其れに答える機会がつけられていた」では、９５．７％であった。以上総合いたしますと、ほとんどが、進め方につきまして、好意的な結果で、一生懸命に取り組んが効果があったと考え、自己の授業の進め方を自負致します。しかし、これに止まらず、「学生アンケート用紙」等を活用したり、学生としっかり意思疎通を図ることによって、学生がいかに、楽しく、興味を持って、英語に取り組むことが出来るかについて、昨年同様、更に、一層の工夫を凝らす所存でございます。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業を振り返ってみますと、教科書、『新世界を読み解く』を中心に、非常に丁寧に、じっくり進めたので、「新聞記事ということで難しいのかな」と思いましたが、新たなことを学べたので、楽しかったです」、「ノートをとめた」、「内容理解の為に努めた」等々、かなり、効果的な授業を進めることが出来たと考えます一方、「日本語訳が早すぎて追いつけないことが多々あった」、という意見が出ていますので、この点を十分に心得、学生の様子を観察しながら、対話を図りながら、効率の良い、授業を進めていくように努力致します。テキストは標準的なものでございましたが、実際は、大変時間が掛かる予習で、専門科目と重複し、かなり負担であったと判断致します。しかし、「拉致問題」や「喫煙問題」、「皇室の問題」等、新聞記事を英語で読むことを通して、横田めぐみさんの記事では、心に響くものがあり、授業中、涙する学生もいました。専門科目だけではなく、学生の心の視野を広げることも大切であると痛感致しました。 <学生が具体的に取り組んだ学習>と致しまして、「ノートをとめた」、「英文を出来るだけ読んだ」、「TOEICを受けた」、「教科書を読んだ」、「英検準2級を受けた」、「事件について調べた」、「予習、復習をしっかりとした」が挙げられております。学期の始めに、「必ず、毎日英語に30分以上は接するように」と勧めました。これが、英語力を向上させる動機づけに多少は役立ったのではないかと自負しております。今後は、昨年同様に、「アンケート」で学生の意見を取り入れたり、「学生一人一人と直接意思疎通」をしっかりと図りながら、学生の英語力の向上を目指して、なお一層、努力してゆきたいと存じます。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科の専門性を考慮して、福祉や医療分野に特化した英語テキストを用いて授業を進めたほか、福祉関係の英語文献を自力で探し出して、その内容の要旨をレポートしてもらおうという課題も与えて、将来の、英語による専門文献の読解にも役立つように努めた。受講生による授業評価アンケートにも表れているように、多くの受講生が十分に予習をして授業に臨んでくれたことで、専門性の高い内容を持つ難易度の高い英文テキストであったが、予想以上に授業は順調だった。受講生が本科目を受講する際の動機付けという点からも、テキストを離れた研究課題は、今後も継続したいと考えている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	一例として学期末試験の素点を見ても、全体の平均点が目標としていた7割を超え、71点に達したことから見ても、一部に極端に低い点数の受講生が若干いたものの、おしなべて、教育目標は達成できたと考えている。受講生の授業への取り組み方も、全受講生89名のうち8割近くが、一度も欠席をせず、熱心に受講してくれたことは、授業を進める上で、大きな力となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	福祉学科の外国語科目として、福祉や医療に特化した内容の英語教育は理想的であり、全く妥当であるとする。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価アンケートの「担当教員への意見」に「最後に訳を繰り返してほしい」という趣旨の意見が見られるが、本来、英語を学習する上で、目指すべきことは教員の和訳をそっくり写し取るのではなく、いかに当該の英文を独力で分析（文の仕組み、文型、修飾関係、等々）し、文脈にふさわしい語意を汲み取るか、ということであり、これが出来れば、自ずと自分の言葉で和訳もできるので、今後、一層、結果としての和訳を重視するのではなく、文を理解することに重きを置くように指導したいと思う。また、受講生にもそのような目標意識を持ってもらえるように指導したい。もちろん「和訳も含めて、分からないことは、質問してほしい」とも、毎回、授業中に念を押し、伝えているので、現状でもこのような要望に十二分に応えていると思うが、今後は和訳の扱いに一層、配慮したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	当初の目標は達成できたと考えている。今後の究極の課題は、福祉や医療分野の内容を扱いながら、英語全般のスキル・アップを目指す上で、日常的には用いられない専門用語の難解さと、それに対する一般的英語力をいかに両立させ、バランスの取れた英語教育を実践するかということに尽きるが、より適切な教材選びから課題の与え方やその分量に至るまで、今後も恒常的に、さらに鋭意、創意工夫に努め、より良い授業を目指したいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英会話 A	1	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	First semester of this Oral English course we used the textbook "Four Corners: Book 1", and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2-3 weeks to complete the units. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This semester students were able to achieve a fairly high level of progress. Students improved in speaking simple sentences and by the end of the semester the sentences were noticeably better. Most students could use and respond to classroom English confidently by the end of the first semester. We also used music to improve their listening skills.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	I believe the course was fully able to accomplish the goal of DP1-1 as the students enjoyed working with each other and have begun to make more progress in making themselves understood in English. They have enjoyed singing English songs and learning about English speaking cultures.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Pair work was used this semester and in the future even more would be good. These students are well motivated and attendance was excellent. According to their comments they enjoyed the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

The students seemed very interested in English and are motivated to learn. At first they were hesitant to try to use their limited English but after gaining their trust, the students seemed to open up and be more willing to try. In the second semester we hope to make even more progress.

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル I	1	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで（学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施）「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。 ○受講姿勢に差がある５０（看護学科、栄養学科との合同授業のため）に近い受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のＫ－ｐｏｐなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	登録のみで授業に参加しなかった１人を除き、成績平均が72.666と理想的レベルに近づけることができ、再試対象者もいなかった。また授業評価における到達度自己評価から満足のいく結果が得られたことが分かる。中でも「知識を新たに得ることができた」や「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の設問に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、会話を増やすなどコミュニケーションの機会を増やすように努めた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようにがんばりたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職概論は教員としての資質、職務及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。 ②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、授業への参加度を高める工夫をしてみた。 ③学生には別にノートを作らせ、自分のポートフォリオとして活用できるよう指示し、毎回の課題や持ち帰り課題などを活用することでノートを充実させるように仕組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84.0であり、この科目の全体の平均値81.9を2.1ポイント上まわった。中央値も87.5と高く、総じて好成績である。再試験対象はいなかった。しかし、80点以上が期待値とすれば、80点未満の学生は32名中8名おり、下位25%に課題を残している。 学生の到達度自己評価は3.3～3.8であり、教育の質評価も3.5～3.8であった。到達度評価のうち「コミュニケーション力や表現力」において3.3と低いほうの、「知識の確認」に3.8と高い方のポイントがついている。また(5)判断力の中央値が3.5と全体の中で低く、このあたりが課題だろう。ディスカッションなどを試みたが、まだ馴れなかったのだと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の科目であるから資格取得のため、必修だからという受講動機であり、講義の内容にもとより関心を持っているわけではない。しかし、免許状取得に必要なものであるから位置づけは妥当であろう。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教職課程の科目であり、2年生ということもあってまだ免許の実感は少ないのだろうと思うが、他学科に比して意欲に乏しいので、意欲を喚起する工夫は行いたい。具体的にはシラバスの見直し、配付資料の見直し、となろうか。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評価に於いてほぼ全項目で①②が1～3名いる。この学生たちをなくしていくのが課題であろう。そのためにはシラバスと配付資料の見直し、及びアクティブラーニングの技法などを取り入れていくことが必要かと思われる。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義に対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方と改善課題については大きな反省がある。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという点と難しい。どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに応える学生がいないことにも起因しているが。それでもやはりツウエイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括的評価は3段階A, B, C評価のBの上ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	近藤 憲一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講動機として88%の受講者が「養護教諭免許の取得のため」と回答し、選択科目にもかかわらず進路選択の上からか「必修科目である」と受け止めている受講者が24%、そして、「関心のある内容である」と回答している受講者が8%といった状況であることを踏まえ、他学科との関係もあるが、できるだけ養護教諭としての具体的指導場面や指導の実際を想定した事例等の準備を行うなど、受講への興味関心を醸成しようと工夫した。 ② 昨年度と同様、授業の最初に小、中、高等学校時代の特別活動の思い出を記述する時間を確保するとともに、互いの思い出を交流し合うことを通じて、特別活動への様々な思い出に触れさせ、特別活動への興味関心を深めるようにして受講動機の強化を図った。 ③ 10回の受講後に、これまでの講義から誘発された問題意識の中からテーマ設定したレポートを提出するよう課題を与えて、これまでの学習状況を振り返るようにした。その際、レポートの記述要領の参考となるレポート事例資料を配布し、課題追及への興味関心とレポートの質的向上を醸成した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象者は0名であった。理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講生は90%といった状況であった。受講者による到達度自己評価では、総括的評価、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現、態度、職業選択のいずれの観点も学科別集計を上回っている。とりわけ、「知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」、「職業選択の参考になった」の観点ではいずれも4.0以上(4.0～4.3)であったことから一定の成果はあったものと受け止められる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目はは養護教諭免許の取得には必修の内容である。そのため、免許取得を前提としているものとして受講生の希望にさらに応えるよう工夫していくこととし、多くの受講生も理想的レベルに達していることから、また、担当教員への意見として、「わかりやすく楽しかったです」などの意見も複数寄せられており、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、授業評価項目（１）、（２）、（４）、（５）はいずれも４．１であり、（３）は３．９といった状況であり、いずれの項目も学科別集計ポイントより０．５～０．７ポイント高かった。また、学習量の評価においては、「授業の記録」については１００％、他の項目についても学科別集計の１．５倍から２．５倍といった高い数値だったことから、事例等の紹介を主として養護教諭を対象としたことが良い影響を与えていることが伺える。しかし、一方で、栄養教諭や教諭の免許取得希望者にとってやや問題を残すこととなった点を、今後、どのように工夫するかが課題である。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	福祉学科の受講生の目標達成状況、受講生の到達度自己評価、授業の質評価、学習量の評価、情報利用、図書館利用の状況いずれも満足いく状況であると言える。しかし、このような状況は、先にも触れたが、事例等の紹介を主として養護教諭を対象としたことが良い影響を与えていることの結果かもしれない。栄養教諭や教諭の免許取得希望者も受講するという学科横断的科目としての問題が垣間見られ、今後、できるだけ改善工夫を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育方法論は担当する教職課程の最後の講義（今年着任なので最初で最後）になるので、教員としての実践力の基礎及び採用試験対策の準備となる基礎的教職教養の知見を身に付けさせることを目標とした。 ②受講動機はほとんどが「必修」「資格取得に必要」ということになるので、講義の内容如何にかかわらず、受講姿勢は真面目であるが、興味関心が強いかどうかは怪しいので、参加度を高める工夫をしてみた。 ③途中、中間テストを入れ、かつ問題を協力して考えるという参加型（アクティブ・ラーニング）の手法を取り入れてみた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.2であり、この科目の全体の平均値87.6よりわずかに低かっただけである。再試験対象はいなかった。多くの学生は期待した水準に達したと言うことはできる。 学生の到達度自己評価は(7)を除き3.8～4.0であり(7)は3.6)、学生はおおむね満足して受講したと思われる。授業の質評価は3.8～4.0という評価となった。養護教諭のイメージが具体的な教育方法論の内容と近かったのかもしれない。 学習量も多く、関心の高さが成績につながったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。しかし、実際に受講してみて将来の実務（養護教諭）とイメージが重なったためか、よく勉強したと思う。その意味ではカリキュラム上の位置づけは妥当であろう。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎回、持ち帰りの課題を出したり、提出させた課題は返却しているが、それらをきちんと復習の素材にしていることが自由記述から読み取れる。課題の精選、図書館利用を促す方向での指導などを組み込んで改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

判断力や、技術面での到達度自己評価においてまだ不十分なので教職の実務にかかわる内容を増やす方向で改善をはかりたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識にくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は75.1点、合格率は97%であった。平均点を70点程度と予想しており、予想以上の結果であった。秀は7名、優は9名であり(33人中)であり、合格者の上位層も厚くなっている。指定された枠組みを守りながら最低限のアウトプットはできており、知識理解については満足できる。授業のねらいと教材や授業展開の工夫など、思考判断について不十分な学生が8名おり、その対応が必要である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。全体的に集中して受講していたことがうかがえる。学習の一層の深まりという意味では、宿題だけでなく、授業中の作業として自分自身の指導案作りをさせるなど、演習的なアプローチが必要だと考えている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	下位層の学生の底上げ、特に授業展開にかかわる質の向上を目指したい。達成状況からすると、基本的な部分は達成できたが、自分なりの工夫という部分で弱い学生がいる。具体的にどのような形で授業を構想すればよいのかという点を理解してもらえるような工夫を行いたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	福祉学科
氏名	野原 三郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機として「必須教科」23.1%「資格に必要」92.3%、「関心のある内容」11.5%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。 ② 授業の実施にあたっては、従来の生徒指導の内容とともに、子どもや学校にかかわる災害や事件事故をどのように予見し回避すべきかについて考察する内容とし、以下の3点に重点を置いた。 ・近年の生徒指導に関する事象や関係法規を取り上げ、学校・教師の社会的使命の自覚とコンプライアンス意識の醸成を図る。 ・子ども達の社会性や対人関係能力を育むガイダンスカリキュラムについて演習を通して学ぶ。 ・危機管理能力と、防犯・防災教育についての実践的指導力を育成する。 ③ 授業の導入にあたっては、教育問題や児童生徒に関する事件事故に関する新聞記事を用い、学校現場に直結した授業となるよう心がけた。さらに教育課題をどう捉え、解決する方策について講義・演習を行った。演習としてSST、犯罪やいじめ防止のロールプレイングなど、実践的な内容になるよう配慮した。 ④ 受講学生は全員が3年生であり、実社会への接続期となり、社会や学校教育に関する意識や関心を持たせるために、毎週の課題として一週間の新聞記事から教育問題に関する記事についての感想文論作文を提出させ添削を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① <目標を達した>の項目では、同科の受講生28名中肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「5名、10名、12名」96.45%であり、否定的回答は「すこし」が1名3.8%であった。 ② 学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「10名、17名、1名」「4名、17名、7名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。 ③ 学生の思考判断に関する<検討する力><判断する力>それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「10名、13名、5名」「7名、15名、6名」で100%であり、否定的回答は0であった。このことから同様に目標に達したと言える。 ④ 同じく意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は、「12名、11名、5名」、否定的意見は0名となっており、多くの学生が意欲をもって授業に参加したと言える。 ⑤ さらに技能表現に関する<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「8名、11名、8名」「9名、8名、11名」であったのに対し、否定的回答は<技術>の「すこし」が1名となっている。 ⑥ <職業倫理>や<職業選択>での肯定的回答はそれぞれ「7名、14名、6名」「17名、9名、2名」であったのに対し、否定的回答は、<職業倫理>について「すこし」が1名となっている。 ⑦ 以上の結果から、概ね満足できる水準であると言える。<職業選択>の項目で、肯定的意見「かなり」と回答した学生が17名と多かったのは、授業が学校現場に即した内容であったことによるとと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CPカリキュラムマップ上における本科目の位置づけからみての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「必須教科」6名23.1%「資格に必要」24名92.3%、「関心のある内容」3名11.5%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり、位置づけ動機づけの一つとしている。こうした学生の志向に応えるためにも、近年の教育の動向を踏まえた内容を工夫し、学生も一定の成果を収めており、内容の妥当性はあるものと思われる。特に、児童・生徒の問題行動への対応の在り方についての基本的理解や、SST等の演習を行ったことは、教育実習を充実させる上でも本教科の内容の妥当性があると考え。 近年、学校内外において予想を超えた様々な問題が発生し、その都度学校の危機管理意識の欠如が厳しく指摘されている。これらは従来型の問題行動に加え、より対応が難しく、学校・教師に大きな責任が課せられる。これらの児童生徒に関する災害や事件事故への確に対応するには、① 学校保健安全法をはじめ安全に関する様々な法規についての理解とコンプライアンス ② リスクマネジメント、クライシスマネジメントの在り方 ③ 体験を通した防犯・防災教育の指導方法、の三点が必要であると考えられ、本教科でも出来る限り取り組んでいる。このことは教師をめざす学生にとって必須であり、本教科の内容の妥当性があると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生の担当教員への意見は、「論作文をもっと頑張りたいと思った」「わかりやすく自分の表現力が身につくスキルが上がった」「授業を受けるたびに頑張ろうと思った」「将来のためになる授業」といった肯定的意見が多くあった。一方、「説明をもっとゆっくり」「スライドが早すぎる」といった授業の進め方についての意見があった。また、「授業の質の評価」については全てが肯定的回答となっており、目標を達したといえるが、<説明は理解しやすい>については、中央値が4.0であるにもかかわらず平均値が3.8と最も低い値となっている。以上のことについては、シラバスの消化にこだわるあまり、学生が授業内容を十分に咀嚼できないままに授業を進めたことが反省としてあげられる。 ② 「学習量の評価」については<準備>については6回が最も多くなっているが、<復習>については1回の回答が最も多くなっている。 また、<授業の課題以外に学習>についても最多の学生が0と回答している。その理由として「課題が多かった」との意見であった。 以上の点から、指導内容の精選を図るとともに、講義中心の授業から学生が協力し主体的に課題解決を図るような授業の追求が必要である。また、知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回小テストを実施するようにしたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合的評価として、概ね良好であるが課題も多い。以下に本年度の課題解決に向けた対応について述べる。 ① 栄養教諭が児童・生徒の健全育成に果たす役割や関係性について、年度当初に十分に理解させる。 ② さらに、知識の定着を図り家庭学習へ繋いで行くために、授業の終わりに毎回小テストを実施する。 ③ 本年度、取り組みはしたが十分な時間が確保できなかったPBLやブレインストーミングとKJ法、開発的生徒指導の例としての構成的グループエンカウンターやSSTなどの実践的活動を充実させる。
------------------------------	---